

2019 年度版

自己点検評価報告書

宝塚大学

自己点検評価委員会

2020 年 6 月

# 2019年度版 自己点検評価報告書

## 目次

### I. 法人・大学の概要

- (1) 建学の精神、教育理念、大学教育の目的等 p. 1
- (2) 学校法人の沿革・設置する学部・学科等 p. 2
- (3) 学生数等の状況 p. 3
- (4) 大学・教育研究組織（委員会組織等を含む） p. 5

### II. 学修と教授

- (1) アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ p. 9
- (2) カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の実施状況 p. 12
- (3) ディプロマ・ポリシーに沿った卒業・修了認定の実施状況 p. 16
- (4) キャリア教育の実施状況 p. 17
- (5) 国家試験の合格実績 p. 18
- (6) 点検・評価 p. 19

### III. 研究活動

- (1) 公的研究費（科研費等）のコンプライアンス教育等 p. 20
- (2) 科学研究費補助金 p. 20
- (3) 学長裁量経費 p. 21
- (4) 研究倫理審査状況 p. 22
- (5) 大学紀要の発行 p. 22
- (6) 点検・評価 p. 23

### IV. 学生支援

- (1) 学生支援の主な取組み p. 24  
（学生相談室・学修支援要員・チューター制度・学修支援室）
- (2) 奨学金制度 p. 24
- (3) 学生自治会、サークル等のクラブ活動 p. 25
- (4) 保護者対象の教育懇談会 p. 26
- (5) 留学生支援の体制（東京メディア芸術学部） p. 26
- (6) 点検・評価 p. 26

### V. キャリア支援体制と卒業生の進路状況

- (1) 学部生・大学院生・留学生へのキャリア支援 p. 27
- (2) 進路状況と就職先 p. 27
- (3) 点検・評価 p. 28

### VI. 図書館の整備と利用状況

- (1) 図書資料の所蔵状況と施設・設備と利用状況 p. 29
- (2) 点検・評価・ p. 30

### VII. 施設・設備等

- (1) 施設・設備、教育環境の改善・整備等 p. 30

(2) 点検・評価	p.	30
VIII. 危機管理体制		
(1) 防災体制・安全対策・危機管理体制	p.	30
(2) 点検・評価	p.	31
IX. 広報活動		
(1) 主な広報活動	p.	31
(2) 点検・評価	p.	32
X. 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献		
(1) 各キャンパスの取組みと活動実績	p.	32
(2) 点検・評価	p.	33
XI. 管理運営		
(1) 管理運営体制	p.	33
(2) 自己点検評価体制	p.	33
(3) 大学評価審議会	p.	34
(4) 点検・評価	p.	35
XII. 財政		
(1) 財務面からみた中期計画（経営改善計画改訂版）最終年度の目標	p.	35
(2) 具体的な財務改善策	p.	35
(3) 2019年度決算の状況	p.	36
巻末資料		
(1) 学内委員会活動の取組み	p.	38
(2) 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献（取組み写真）	p.	55

## 図表一覧

表1	教育研究上の目的	p.	1
表2	沿革	p.	2
表3	学部・学科構成	p.	3
表4	学生数	p.	3
表5	学部 定員充足率	p.	4
図1	収容定員・在籍者数・主要定員充足率	p.	4
図2	学校法人関西女子学園及び宝塚大学の組織図（2019年4月）	p.	5
表6	専任教員数	p.	6
表7	教員組織表	p.	6-7
表8	委員会組織	p.	8
表9	職員数	p.	8
表10	オープンキャンパス等の出席者状況	p.	10
表11	入学選考状況	p.	11
表12	入学選考内容（2019年度実施の入学選考）	p.	12
表13	2019年度のFD・SDの開催状況	p.	15
表14	看護師国家試験合格率	p.	18
図3	看護師国家試験新卒合格率	p.	18
表15	科学研究費補助金の交付状況	p.	20
表16	学長裁量経費の受給状況（2019年度）	p.	21
表17	研究倫理審査の状況（看護学部）	p.	22
表18	宝塚大学紀要 No.33（2020年3月31日発行）	p.	22
表19	学生相談室の状況	p.	24
表20	宝塚大学独自の奨学金及び給付額等の実績（2019年度）	p.	25
表21	2019年度教育懇談会（保護者懇談会）の実施状況	p.	26
表22	2019年度卒業生の進路状況（2020年5月1日現在）	p.	27
表23	図書資料の所蔵状況と施設・設備の状況	p.	29
表24	地域連携（社会連携） 2019年度の活動実績	p.	32
表25	2019年度 宝塚大学 大学評価審議会委員	p.	34

## I. 法人・大学の概要 [2019年5月1日現在]

### (1) 建学の精神、教育理念、大学教育の目的等

#### ① 建学の精神 「芸術と科学の協調」

「本学は、人間形成の一環として、芸術・科学に関する学問を素地とし、芸術的体験を通じて、情操の陶冶につくすとともに、科学の理解力と豊かな感性・創造性・実践力を育成し、更に将来に対する深い洞察力の涵養により、生活文化の向上と産業社会の発展に貢献し、国際社会に対応し得る人材の育成を図ります。」

#### ② 教育理念 「人間の『生きる力』を支える、心に働きかける芸術と看護教育」

〔豊かな感性を持つ〕

自然の美や芸術とともに、人の心や気持を感じることができる人間を育成する。

〔深い理解力を持つ〕

さまざまな学問を学ぶとともに、よく考えることを通じて深く理解できる人間を育成する。

〔高い実践力を持つ〕

感性と理解力を活用して、課題に取り組み実践していくことができる人間を育成する。

#### ③ 大学の目的（宝塚大学 学則 第1条（目的））

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、美術、デザイン、芸術情報及びメディア芸術に関する理論及び表現、並びに看護・保健に関する専門の学術について深く教授研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。

#### ④ 教育研究上の目的（宝塚大学 学則 第2条の2（学部、学科の目的））

表1 教育研究上の目的

大学	
看護学部	看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、保健・看護・医療の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。
看護学科	
東京メディア芸術学部	美術及びメディア芸術に関する基礎的教育を施すとともに、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーション、コンテンツデザイン及び映像に関する理論及び表現について深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。
メディア芸術学科	
大学院	
メディア芸術研究科	美術、デザイン、メディア芸術に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め又高度の専門性が求められる職業を担うため、深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与することを教育研究上の目的とする。
(メディア芸術専攻)	
専攻科	
助産学専攻科	人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けてリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を實踐できる能力の育成をめざす。さらにアート=技を駆使して助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

## (2) 学校法人の沿革・設置する学部・学科等 [2020年4月1日現在]

## ① 沿革

表2 沿革

1967年	昭和42年	1月	学校法人関西女子学園 創設
1967年	昭和42年	4月	関西女子学園短期大学 開設
1975年	昭和50年	6月	関西女子学園短期大学を関西女子美術短期大学に改称
1987年	昭和62年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部美術学科及び産業デザイン学科 開設
1993年	平成5年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程 開設
1995年	平成7年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部映像造形学科 開設
1996年	平成8年	4月	関西女子美術短期大学を関西芸術短期大学に改称
1999年	平成11年	4月	宝塚造形芸術大学造形学部芸術情報学科 開設
2000年	平成12年	4月	宝塚造形芸術大学大学院博士課程 開設
2001年	平成13年	4月	関西芸術短期大学を宝塚造形芸術大学短期大学部に改称
2003年	平成15年	4月	宝塚造形芸術大学造形短期大学部学生募集停止
2003年	平成15年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程大阪梅田サテライト開設
2004年	平成16年	4月	宝塚造形芸術大学大学院専門職学位課程開設
2005年	平成17年	4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科及びコンテンツ・プロデューサー学科開設
2006年	平成18年	4月	宝塚造形芸術大学大学院修士課程東京新宿サテライト開設
2007年	平成19年	4月	宝塚造形芸術大学東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科開設
2008年	平成20年	4月	宝塚造形芸術大学メディア・コンテンツ学部映像造形学科をメディア・コンテンツ学 科に名称変更 同学部コンテンツ・プロデューサ学科学学生募集停止
2010年	平成22年	4月	宝塚造形芸術大学を宝塚大学に改称 宝塚造形芸術大学造形学部美術学科、産業デザイン学科、芸術情報学科及びメディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科の2学部4学科を宝塚大学造形芸術学部 アート・デザイン学科、メディア・デザイン学科の1学部2学科に改組 宝塚大学看護学部看護学科開設
2011年	平成23年	10月	宝塚大学大学院専門職学位課程廃止
2013年	平成25年	4月	宝塚大学造形芸術学部アート・デザイン学科を制作力創造学科に、造形芸術学部メ ディア・デザイン学科を想像力創造学科に改称
2014年	平成26年	4月	宝塚大学助産学専攻科開設
2015年	平成27年	4月	宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科を東京メディア芸 術学部メディア芸術学科に名称変更
2016年	平成28年	4月	宝塚大学造形芸術学部学生募集停止
2017年	平成29年	4月	宝塚大学大学院メディア・造形研究科造形・デザイン専攻修士課程・博士課程(後期) 学生募集停止
2017年	平成29年	4月	宝塚大学メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科の廃止
2018年	平成30年	5月	宝塚大学大学院メディア・造形研究科造形・デザイン専攻修士課程・博士課程(後期) の廃止
2019年	平成31年	3月	宝塚大学造形芸術学部制作力創造学科、想像力創造学科を廃止
2019年	平成31年	4月	宝塚大学大学院メディア・造形研究科メディア・コンテンツ専攻を宝塚大学大学院メ ディア芸術研究科メディア芸術専攻に名称変更

② 設置する学校・学部・学科等 [2019年5月1日]

表3 学部・学科構成

学校	学部・専攻科・研究科	学科・専攻	入学定員	収容定員
宝塚大学	東京メディア芸術学部	メディア芸術学科	130	520
	看護学部	看護学科	100	400
	助産学専攻科		10	10
宝塚大学 大学院	メディア芸術研究科 (修士課程)	メディア芸術専攻	20	40

(3) 学生数等の状況 [2019年5月1日]

- 学部・学科、専攻科、大学院の入学定員及び収容定員、学年別在籍学生数

表4 学生数

	学部	学科	入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
宝塚大学	東京メディア芸術学部	メディア芸術学科	130	520	134	126	66	61	387
	看護学部	看護学科	100	400	105	109	93	98	405
	学部合計		230	920	239	235	159	159	792
宝塚大学	専攻科		入学定員	収容定員	1年次	—	—	—	合計
	助産学専攻科		10	10	11	—	—	—	11
宝塚大学 大学院	研究科	専攻	入学定員	収容定員	1年次	2年次	—	—	合計
	メディア芸術研究科 (修士課程)	メディア芸術専攻	20	40	15	10	—	—	25

- 大学の学部定員充足率の6年間推移 [2015年度～2020年度]

造形芸術学部は2016（平成 28）年に学生募集を停止し、続いて2019年 3月での学部廃止を行ったところである。

東京メディア芸術学部定員充足率については、2017（平成 29）年度までは入学定員未充足であったが、2018年度より入学者が増加し、2018年度入学者 128名、2019年度入学者 134名となり、入学定員をほぼ充足している。2020年度入学者 130名を確保すると、東京メディア芸術学部単体での定員充足率は 86%まで回復し、2021年度にはほぼ定員が充足する予定である。

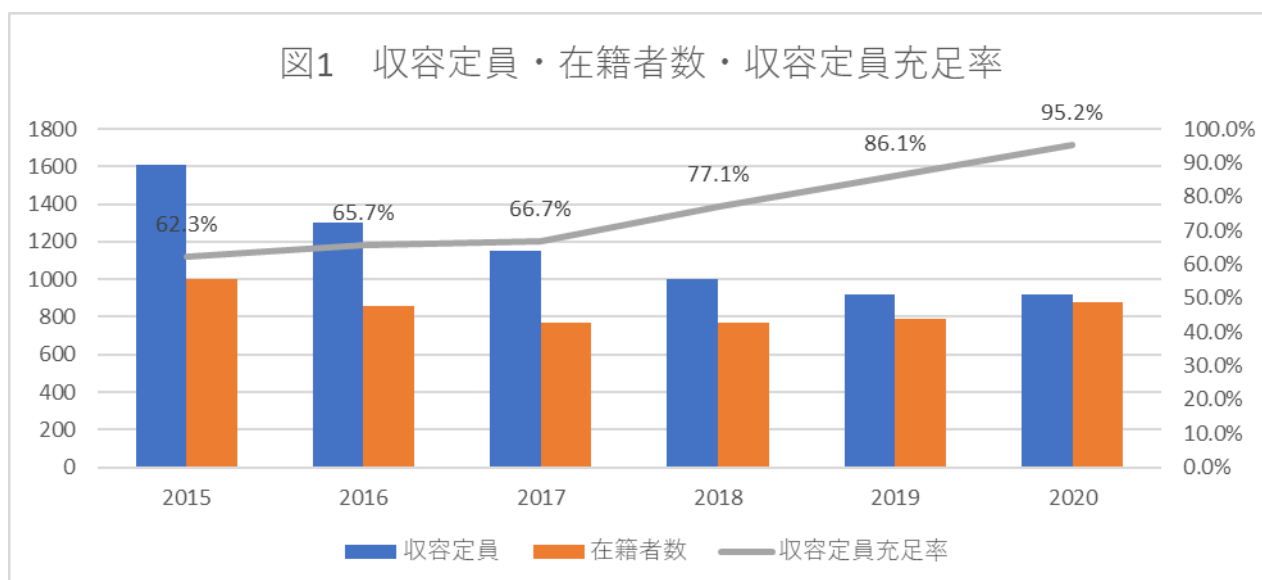
学生充足率が好転した理由として、メディア芸術系の進学希望者の増加もあるが、留学生による出願が多くなっていることが挙げられる。

看護学部は2010年の学部創設から数年間は、入学定員を超過する時期が数年続いたが、その後安定化し、以後、収容定員充足率は100%から105%の間に収まっている。

このように、造形学部の廃止及び東京メディア芸術学部の定員充足に伴って、本学の収容定員充足率は100%達成を見通せるところまで回復してきた。

表5 学部 定員充足率

定員充足率	2015			2016			2017		
	収容定員	在籍者数	充足率	収容定員	在籍者数	充足率	収容定員	在籍者数	充足率
造形	690	248	36%	380	156	41%	230	91	40%
東京メディア	520	308	59%	520	278	53%	520	271	52%
看護	400	447	112%	400	420	105%	400	405	101%
全体	1,610	1,003	62%	1,300	854	66%	1,150	767	67%
	2018			2019			2020		
	収容定員	在籍者数	充足率	収容定員	在籍者数	充足率	収容定員	在籍者数	充足率
造形	80	42	53%	—	—	—	—	—	—
東京メディア	520	321	62%	520	387	74%	520	457	88%
看護	400	408	102%	400	405	101%	400	419	105%
全体	1,000	771	77%	920	792	86%	920	876	95%





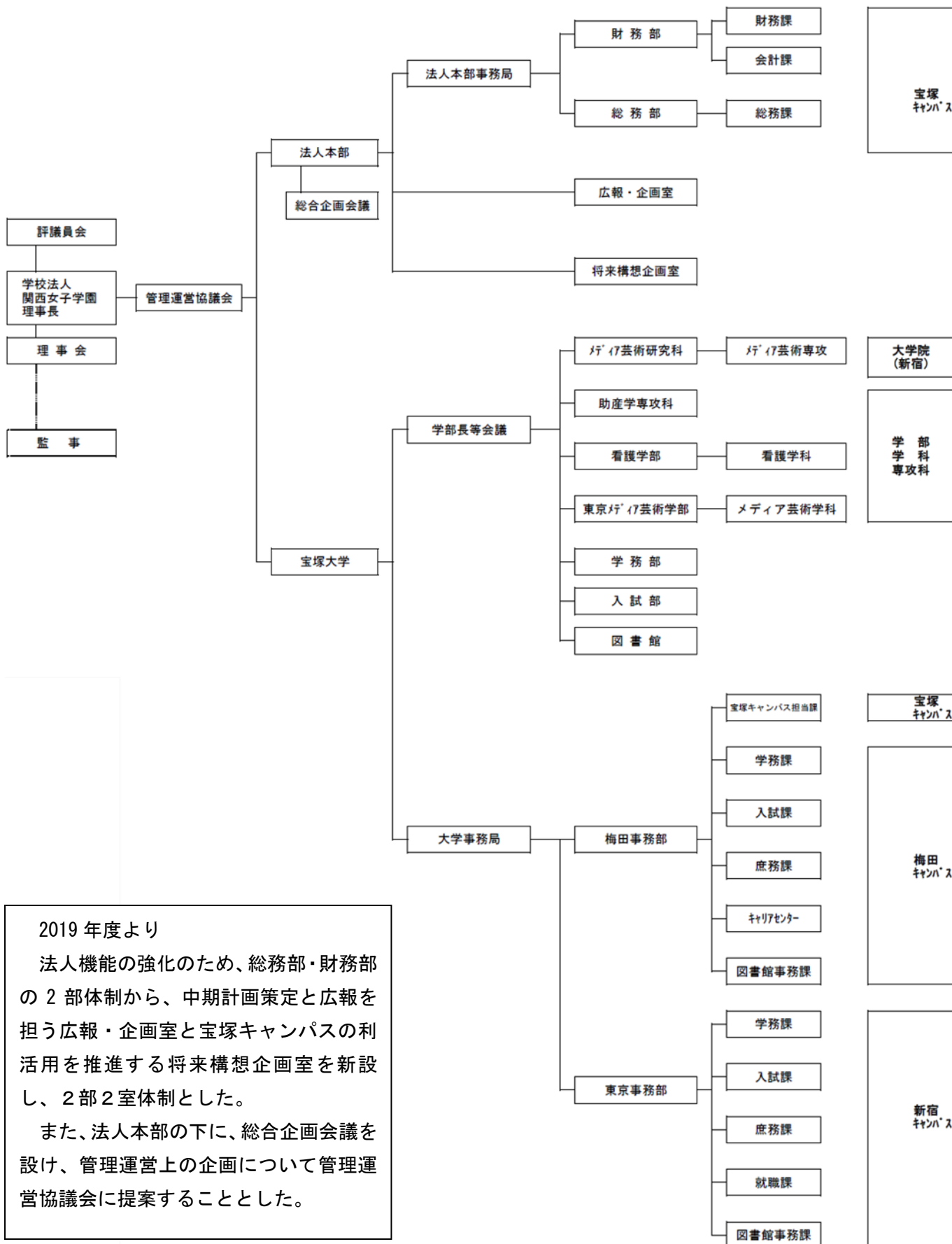
(4) 大学・教育研究組織（委員会組織等を含む） [2019年5月1日]

図1 組織図

法人BB(1)6 管理運営規程 別表1  
管理運営規程 別表 1

平成31（令和元）年度 学校法人関西女子学園 & 宝塚大学 組織図

2019 (H31).04.01



2019年度より  
法人機能の強化のため、総務部・財務部の2部体制から、中期計画策定と広報を担う広報・企画室と宝塚キャンパスの活用を推進する将来構想企画室を新設し、2部2室体制とした。  
また、法人本部の下に、総合企画会議を設け、管理運営上の企画について管理運営協議会に提案することとした。

① 専任教員数 [2019年5月1日]

表6 専任教員数

学部	教授	准教授	専任講師	助教	助手	合計
東京メディア芸術学部	6 [0]	4 [1]	4 [2]	5 [1]	5 [4]	24 [8]
看護学部	8 [5]	5 [5]	7 [7]	4 [4]	6 [5]	30 [26]
合計	14 [5]	9 [6]	11 [9]	9 [5]	11 [9]	54 [34]

※ [ ] 数値は女性教員数

※上記教員数には、学長・副学長及び特任教員（非常勤）は含めていない。

※助産学専攻科教員は看護学部を含めている。

② 兼務教員数： 112名（東京メディア芸術学部：59名 看護学部：53名）

※兼務教員数は特任教員（非常勤）及び非常勤講師の合計。

③ 教員組織表 [2019年5月1日]（※下線のある教員は特任教員（非常勤）を表している）

表7 教員組織表

学長	山川正信
副学長	南部英幸、雨宮照雄
研究科長	北見 隆
図書館長	櫻木晃彦
学務部長	渡邊哲意
入試部長	日高庸晴
東京メディア芸術学部	
学部長	北見 隆
学科長	渡邊哲意
教授（6）	井上幸喜、北見 隆、櫻木晃彦、竹内一郎、古瀬 登、渡邊哲意
特任教授（3）	杉山直樹、 <u>月岡貞夫</u> 、 <u>松本零士</u>
准教授（4）	芦谷耕平、近藤真彫、中村泰之、吉岡章夫
専任講師（4）	市野治美、高田美苗、橋口静思、仁藤 潤
特任講師（1）	<u>田島悠史</u>
助教（5）	神林 優、篠田雅人、中山春樹（李春）、増田宗嶺、梁 亜旋
助手（5）	石川雄仁、川上 遥、中里智美、松浦李恵、和田歩美
非常勤講師（55）	荒木由加里、池田宏、伊丹谷良介、岩田明子、上原愛弓、薄井隆、小方涼子、小高みちる、勝又俊雄、加藤勉、加藤雅夫、川野智美、菊池優、北村伊知郎、小森顕博、佐藤宏樹、澤田美樹、四宮義幸、柴田こずえ、清水弥生、清水友乃、城芽ハヤト、瀬戸早苗、武澤啓之、瀧本みわ、竹内直也、たちばないさぎ、たぶき正博、田淵俊彦、多和田吏、David F Martin、中川明博、西村悠、萩原京子、橋本三郎、はとりあゆむ、范文玲、馬場匡浩、平野靖士、平山敬二、二村克彦、平敷隆、本多由美子、真島ヒロシ、松平聡、松吉太郎、宮下善成、武藤雄太、村松哲文、安田隆浩、大和淳、吉澤早苗、吉田光彦、渡辺千栄子、李宏偉

看護学部	
学部長	澤田京子
学科長	山本裕子
教授 (8)	尾ノ井美由紀、澤田京子、巽圭太、中川ひろみ、八田勘司、日高庸晴、峯岸由紀子、山本裕子
特任教授 (1)	高原史郎
准教授 (4)	上山直美、浮田恭子、合田友美、牧野裕子
専任講師 (6)	伊佐夏実、岩城晶子、梅川奈々、西田千夏、平野加代子、美王真紀
特任講師 (1)	八田康弘
助教 (3)	大内由梨、瀬山由美子、堀 陽子
助手 (5)	林 朋博、廣田香、前田圭子、森脇美咲、山内聡子
非常勤講師 (47)	飯島照仁、池田方彩、池田美智子、伊藤園子、入江章子、上田順平、内海美保、大本友香、小川詩乃、片山康予、加畑公一郎、神竹道士、川島隆志、河内厚郎、北垣博美、木村千尋、小林秀加、小松寛明、坂元美子、佐々木宏、白井智子、渋谷直樹、鈴木洋昭、鈴木真澄、杉野美礼、武田倫衣子、中川光、永田節子、中村貞夫、西尾裕子、長谷川章子、林貴啓、林勇氣、原田淳平、潘建秀、潘山海、堀家なな緒、松本洋美、宮阪信次、宮寄英寿、三好弘之、毛利郁子、森合音、森口まどか、山口三郎、横越谷勝雄、吉田浩

助産学専攻科	
専攻科長代行	小神野雅子
准教授 (1)	小神野雅子
専任講師 (1)	松田佳子
助教 (1)	中尾幹子
助手 (1)	阪田あみ
非常勤講師 (4)	生島博之、坂下裕子、藤田圭以子、堀 謙輔

大学院 メディア芸術研究科 メディア芸術専攻 (東京新宿キャンパス)	
研究科長	北見 隆
教授	井上幸喜、北見 隆、櫻木晃彦、竹内一郎、古瀬 登、渡邊哲意
特任教授	月岡貞夫
准教授	芦谷耕平、近藤真彫、中村泰之
専任講師	市野治美、高田美苗

④ 各学部の委員会組織表 [2019年5月1日]

※常置委員会を記載 ◎印：委員長 ○印：副委員長

表8 委員会組織

東京メディア芸術学部			
委員会名	専任教員・助手	事務職員	外部委員
教務委員会 学生委員会 (科研費 兼務) ※別委員会であるが委員は 全員兼務	◎近藤(教務)・◎橋口(学生)・井 上・北見・杉山・竹内・渡邊・仁藤・篠 田・梁・石川・川上・中里・松浦	○高山(教務)・○大和(学生)・登 坂・村田・岩脇・成田・小川	
入試委員会	◎吉岡・櫻木・古瀬・市野・高田・篠 田・中山・石川・中里	○金澤・佐藤・成澤・森岡	
広報委員会	◎仁藤・○芦谷・渡邊・吉岡・増田・ 梁・松浦・和田	宇部・宮幸・梁	
就職委員会	◎中村・井上・市野・高田・中山・神 林・川上・和田	○谷口・名雪・佐藤・小川	
IR推進委員会 (FD委員会兼務)	◎篠田・渡邊・橋口	○高山・大和	
※特別委員会：紀要編集委員会			

看護学部			
委員会名	委員会メンバー	事務担当	外部委員
教務委員会	◎尾ノ井・上山・牧野・平野・西田・梅 川・山内	谷口・松本	
学生委員会	◎八田・浮田・伊佐・岩城・中尾・前 田・森脇・林	藤田・楠本	
FD委員会	◎浮田・合田・平野・廣田	今村	
キャリア支援	◎峯岸・巽・美王・堀・阪田・廣田	太田・中西	
実習委員会	◎中川・牧野・美王・梅川・西田・瀬 山・前田	谷口・松本	
国家試験対策委員会	◎合田・浮田・美王・伊佐・岩城・瀬 山・堀・山内・森脇	太田・中西	
研究倫理委員会	◎中川・山本・上山・伊佐	田中	中塘・永井
紀要編集委員会	◎巽・峯岸・岩城・阪田・林	増田	
図書委員会	◎尾ノ井	月本・川久保	
入試・広報委員会	◎日高・澤田・山本・小野神・牧野・浮 田・梅川・西田・平野・松田	中島・会田	
※特別委員会：カリキュラム委員会、倫理委員会、看護学部将来構想委員会			

⑤ 各キャンパス別職員数 [2019年5月1日]

表9 職員数

キャンパス	専任職員	契約職員	教務助手	パート	合計
宝塚(法人本部)	11	0	0	0	11
東京新宿	11	7	1	0	19
大阪梅田	15	1	0	1	17
合計	37	8	1	1	47

※法人本部職員は宝塚キャンパスに含めている。

## Ⅱ. 学修と教授

### (1) アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

#### 1) アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシーを Web サイト及び大学案内パンフレット、学生募集要項等に記載し、入学志願者に対して、広く公表し周知を図っている。特に受験生、高校生、保護者と直接接点できるオープンキャンパスでは、アドミッション・ポリシーはもとより、専門分野ごとに学べる授業カリキュラムの内容について紹介し、受験希望者、保護者の学びの質問に対し、具体的かつ丁寧な回答を心掛け周知に努めている。

#### ① 大学のアドミッション・ポリシー

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、高等学校等における学修を通して基礎学力を身につけ、幅広い教養と高い専門性を求めようとする、向上心・探究心を持っている人を受け入れます。

#### ② 東京メディア芸術学部のアドミッション・ポリシー

本学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を行う条件として、次のような能力や意欲を備えた人物を求めます。

1. 高等学校卒業レベルの基本的能力を備え、積極的にメディア芸術を学修する意欲を持つ人
2. 高等学校等の教育課程外（部活動やボランティア活動、社会貢献活動等）においても主体的に活動し、知識や技能を身につけてきた人
3. 明確な目的意識や目標を持ち、社会に貢献する意欲を持つ人
4. 社会の規範を遵守し、メディア芸術分野の知識や技能を用いた表現への意欲を持つ人
5. 計画性をもって他者と協力し、物事に取り組もうとする人
6. 知識や経験を基に理論的に判断し、物事を表現する意欲を持つ人

#### ③ 看護学部のアドミッション・ポリシー

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

##### 1. 知識・理解

- 入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- 高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

##### 2. 思考・判断

- さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

##### 3. 関心・意欲

- 人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

##### 4. 態度

- 豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

##### 5. 意欲

- 看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

##### 6. 表現

- 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

#### 2) 学生募集について

##### 【東京メディア芸術学部】

「大学名の認知度向上のための広報策」として、学部のトップページをリニューアルし、スマートフォンユーザー向けのデザインを構築した。またファミリーマートでの店舗広告、リスティング広告、SNS（Twitter, Instagram）YouTube などへ参画した。加えて本学の特色である地域連携、学外活動のプレスリリースを年間通し

て継続的に行い、社会に近い大学であることをPRした。進学相談会、出張授業を166件参画し、高校生との接触到に専念した。また進路指導担当の教諭との面会、いわゆる高校訪問を2018年度は1,503件であったが、2019年度は1,675件まで増やし、大学紹介、説明の他、奨学金「AO1期対応型スカラシップチャレンジ」、「一般1期対応型スカラシップチャレンジ」制度について告知を行った。その結果、2020年度入試実績では、AO入学選考は1.07倍、一般入学選考は1.32倍の出願増になった。

2012年度以降、6年連続で入学定員割れ(0.7倍未満)が続いていたが、2016年度より学部の広報活動を見直し、入試制度改革及びオープンキャンパスの改善に向けて教職協働で取り組んだ。その結果、2018年度入学者数は128名(入学定員の98%)、2019年度入学者は134名(入学定員の1.03倍)、2020年度入学者は136名(入学定員の1.04倍)となり、入学定員充足率は3年連続で回復基調となっている。しかしながら、今後、メディア芸術系を取りまく学生募集環境は厳しくなることが予想されるため、引き続き学生確保のための方策について検討・改善をしていくことが必要である。

【看護学部】

学生募集については、一昨年に引き続いて広報戦略を見直し、WEBやSNSなどターゲットに直接届くメディアに広報費を重点配分した。また、高校訪問の強化、高大連携講座を複数校と実施するなど、高校との連携を強化して信頼関係を構築することに注力した。

この結果、オープンキャンパスの参加者数は1,105名となり、一昨年度(オープンキャンパス、ミニオープンキャンパス合算)の978名から大幅に増加し、また、総志願者数についても536名となり、一昨年度の469名から大幅に増加した。

一方で、一般入学選考の志願者数は234名と一昨年度に引き続き厳しい数字となっている。こうした状況は今年度も続くと考えられるため、総合型選抜(旧総合型入試)や学校推薦型選抜(旧公募推薦、指定校推薦)など、年内に実施する入試の広報を強化すると同時に、WEB出願システムや入学検定料割引制度の導入、一般選抜に高得点2科目による併願制度を新設するなど、本学を受験しやすい環境を構築して志願者の増加をめざしていきたい。

表10 オープンキャンパス等の出席者状況

		2019年度		2018年度		備考
		(2020年度募集)		(2019年度募集)		
		生徒	保護者	生徒	保護者	
東京メディア 芸術学部	オープン キャンパス	957	361	1,026	420	2019年度：10回実施 2018年度：12回実施
	合計	957	361	1,026	420	( )内は前年度比
		93.3%	86.0%			
看護学部	オープン キャンパス	759	339	708	269	各年度：5回実施
	受験対策講座 (単独開催)	57	0	82	0	対策講座単独開催は 各年度：2回実施
	合計	816	339	790	269	( )内は前年度比
103.3%		126.0%				

表11 入学選考状況

東京メディア 芸術学部	2020年度（2019年度募集）					2019年度（2018年度募集）				
	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
AO1期	52	36	36	31	31	52	40	40	40	40
AO2期		4	4	3	3		8	7	7	7
AO3期		8	8	7	7		7	7	7	7
AO4期		23	23	19	19		11	11	10	10
指定校推薦1期	52	12	12	11	11	52	5	5	5	5
指定校推薦2期		5	5	5	5		6	6	5	5
公募推薦		6	6	6	6		1	1	1	1
自己推薦1期		実施せず					0	0	0	0
自己推薦2期							1	1	0	0
留学生1期	若干名	38	38	18	15	若干名	27	26	17	13
留学生2期		34	34	15	12		41	40	18	13
留学生3期		48	48	5	5		49	48	19	15
社会人1期	若干名	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0
社会人2期		0	0	0	0		0	0	0	0
一般1期	26	25	25	14	9	26	13	13	9	6
一般2期		18	13	7	7		14	13	8	7
チャレンジ		7	7	4	4		10	10	5	5
日本語学校 指定校推薦1期	若干名	1	1	0	0	若干名	0	0	0	0
日本語学校 指定校推薦2期	若干名	3	3	3	2	若干名	1	1	1	1
合計	130	268	263	148	136	130	233	228	151	134

看護学部	2020年度（2019年度募集）					2019年度（2018年度募集）				
	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
総合型	5	38	38	5	5	—	—	—	—	—
指定校推薦	5	11	11	11	11	5	6	6	6	6
公募推薦前期	20	144	138	46	34	20	107	106	44	30
公募推薦後期	15	107	101	19	17	15	107	105	33	21
社会人	若干名	2	2	2	2	若干名	3	3	1	1
一般1期	45	160	143	45	24	45	156	144	44	24
一般2期	15	74	60	29	12	15	90	76	27	23
合計	100	536	493	138	105	100	469	440	156	105

\* 総合型入試は公募前期に含む



表12 入学選考内容（2019年度実施の入学選考）

東京メディア芸術学部	
A O入学選考（第1期）（第2期）（第3期）（第4期）	作品型：面接・自己制作作品・提出書類審査（調査書） または意欲型：面接・プレゼンテーションまたは小論文・提出書類審査（調査書）
公募推薦入学選考	面接・自己制作作品・提出書類審査（調査書）
一般入学選考（第1期）（第2期）	学力試験（英語・国語・数学から選択）・ 実技試験（鉛筆デッサンまたは小論文）・ 提出書類審査（調査書）
チャレンジ入学選考	面接・提出書類審査（調査書）
社会人入学選考（第1期）（第2期）	面接・自己制作作品
留学生入学選考（第1期）（第2期）（第3期）	作文（文章表現）・鉛筆デッサン・面接
看護学部	
総合型入学選考	第1次選考（書類選考） 第2次選考（講義受講及び口頭試問・面談形式のヒアリング選考）
公募推薦入学選考（前期）	基礎適性検査（英語・数学・国語）・小論文
公募推薦入学選考（後期）	基礎適性検査（英語・数学・国語）・グループ討論
一般入学選考（第1期）（第2期）	学科試験（英語・国語・数学または生物より選択）
社会人入学選考	基礎適性検査（英語・数学・国語）・個人面接

※その他、指定校推薦入学選考を実施

## （2）カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の実施状況

### ① 東京メディア芸術学部のカリキュラム・ポリシー

本学部では、建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力や資質及び専門性を修得させるため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施している。

#### 【教育課程編成の方針】

1. メディア芸術に関する基礎的知識の修得と職業意識の醸成、コミュニケーション力及びコラボレーション力の育成を行い、実社会で活動するための知識や技能の基礎を築くことを目的に、初年次教育の科目群を設定する。
2. 現代社会の要請を的確に捉え、思考の方法や行動の原理を理解するための基礎となる、汎用的な能力や社会的規範の修得及び多様な文化の理解を目的に、「基礎科目」「外国語科目」の科目群を設定する。
3. メディア芸術の素養を身につけた人材として、社会において活躍するために求められる、体系的な専門的知識や技能を育成することを目的に、「専門科目」の科目群を設定する。
4. 大学での学修を実社会と接続させる実践的体験を通して、学修の意義を認識し、社会において活動する意欲と能力を育成することを目的に、ゼミ活動や学外連携活動を設定し、単位を付与する。
5. 本学科での学修により得た知識や技能を統合し、自らの思考を表現、発信する能力を育成することを目的に、「卒業制作及び論文」を必修科目として設定する。

#### 【実施の方針】

1. 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、各回の授業内容、成績評価基準を明確にして周知する。
2. 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの思考を他者に伝える力を育成するために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や教育方法を工夫する。
3. 大学での学修が実社会と接続していることを認識させるために、自治体や地域の団体等と連携した活動を積



極的に実施する。

4. 授業の双方向性を高めるために、学生から提出された課題や制作物へのフィードバックを積極的に行うよう努める。
5. 教育課程の有効性について、学生の履修状況、単位修得状況、学生への各種アンケート調査及び教職員などへの調査に基づいて点検し、評価する。

#### 【教育評価】

1. 1年次修了時に、自身の興味・関心や学修状況に基づき、2年次以降の専門分野を教員と話し合う専門選択面談を行う。
2. 3年次修了時に学修の到達度や成果に基づき、卒業制作や卒業論文に取り組む基礎能力の修得が完了しているかどうかの到達度評価を行う。
3. 4年次において、本学科での学修の成果を統合する「卒業制作及び論文」を必修とし、評価担当教員において評価基準に基づいて公正に評価する。

#### ② 看護学部のカリキュラム・ポリシー

教育理念、教育目標を踏まえたアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定している。

カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置している。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。
  - 人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけることに必要な教育内容とする。
2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。
  - 必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。
3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。
  - 専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」「看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。
4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。
5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

看護の専門領域はもちろん、医療・心理学・社会福祉などの関連領域や、芸術系科目の学修を通して豊かな人間性を育み、「人間」への深い理解をもって看護を実践できる能力を養うための多彩な科目が用意されているのが特徴である。他大学にはない茶道・華道・香道・書道といった伝統芸術分野の学びや絵画・音楽・笑い・セラピーメイクなどの芸術療法分野の学び等の科目を取り入れ、幅広く、臨床現場でも役に立つ講義を行っている。

### ③ カリキュラム改革

#### 【東京メディア芸術学部】

東京メディア芸術学部においては、2018年に教職協働による「教学企画室」を設置し、教学課程整備・改編（具体的には領域制から分野制へ、ゼミ制度の構築、初年次教育内容の見直し、キャリア科目の見直しなど）、退学率低下、GPA制度の導入などの課題に取り組んだ。

2019年度よりゼミ制度を導入し、2018年度以降入学の2～4年次生は必ず本学部の専任教員が主催するゼミに所属することになった。4年次においてゼミ担当教員が授業科目「卒業研究」の指導を行うことになるが、2・3年次においては特に授業を実施するものではなく、担当教員を中心とした自由な活動を行うことができる。基礎力・応用力は主に日頃の授業で、発想力・企画力は主にゼミ活動で修得し、それらの成果が「卒業制作」で総合的に発揮されることが期待される。

#### 【看護学部】

2022年度より改定となる「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に則した内容となるよう、カリキュラムの見直しを進めている。社会の変遷に対応し、看護師として必要とされる質の高い人材育成のために、教育内容の強化及び見直しに努めている。具体的には、2019年度より「キャリア教育Ⅰ」「キャリア教育Ⅱ」を設置し、学生の職業観変容を促す授業を行っている。

### ④ 入学前教育・初年次教育

#### 【東京メディア芸術学部】

入学前教育はテーマを変えて2回実施した。1回目は「7つの課題」として指定されたテーマに従ってスケッチブックに作品を描くこと課題を課した。これは新入生個々の技術を評価するためではなく、新入生が課題の意図を正しく理解できているか確かめることと、大学での学びとは唯一絶対の答えが無いものであることを新入生に体験させることの2点が主たる目的であった。2回目は新入生同士の交流を図るためにキャリアプランについてディスカッションをする場を設けた。

初年次教育は、大学で学ぶための基礎力（調べる・考える・伝える・表現する）及びコンピュータ・リテラシーを軸とした「表現実践」「表現試行」「表現とICT」の3科目に加えて、2年次以降の学修の基盤となるコンピュータデザインスキルを涵養するため「コンピュータデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」を新たに学科必修科目とした。

#### 【看護学部】

入学前教育では、大学での授業を理解しやすくするために高等学校の基礎教育「英語・数学・国語・理科」の自習課題を与えるリメディアル教育や、また本学部の特徴である芸術を組み入れたホスピタルアートについての講義を受講し、それに付随した課題を提出させた。入学後は、キャリア教育Ⅰの科目で、将来の看護職を展望するキャリアデザインや、看護職として必要とされる知識と技能を修得するためのアカデミックスキル、コミュニケーションスキルの向上を目的に講義を実施した。

### ⑤ 授業計画（シラバス）作成の適切性及び運用

#### 【東京メディア芸術学部】

シラバスには科目の基本情報に加えて、到達目標、事前・事後学習内容、学生へのフィードバック方法、成績評価方法、ディプロマ・ポリシーと当該科目との対応関係を記載している。2019年度からは「実務経験のある教員の授業科目」を追加するなど、シラバスが学生の学修に役に立つものとなるよう改善を加えた。また、学部教務委員会にてシラバスの検証を行っている。シラバスの検証にあたっては全授業の記載内容を点検し、必要に応じて修正を依頼するなど、シラバスの適切性を担保する仕組みとなっている。

#### 【看護学部】

教務委員会内にシラバス小委員会を設け、毎年、シラバスの記載項目と内容の見直しを行っている。実務家教員が担当する授業科目の記載、ディプロマ・ポリシーと授業内容の関連性、アクティブ・ラーニング項目の細分

化をした。事前・事後学習についても、学生が理解しやすい表現とし、学生の自己学習を促す内容としている。

#### ⑥学生による授業アンケート結果の学生・教員へのフィードバック

各教員が授業方法の改善点を見出し、積極的に自己研鑽し、大学全体の教育の質を向上させるため、学生による授業評価アンケートを年2回実施している。アンケート結果は、教員及び学生が閲覧できる場所に設置するとともに、教科担当の全教員に個別に配布して授業改善に努めるよう促している。また東京メディア芸術学部では、授業アンケートで高ポイントであった教員の授業見学をFD研修の一環として実施し、学生にも参加を呼びかけている。

#### ⑦教職協働、SA (Student Assistant)、LS(Learning Staff)等の活用による学修支援

学部内に設置されている各委員会及びFD/SDには、専任教職員の参加を義務づけ教職協働による意見交換と協議を行いながら学内情報の共有化を図っている。また、学修支援体制の取り組みとして、学修者の理解度や到達度が維持できるよう、PCなどの実技系授業に助手・SAを配置し、授業の質の向上にむけたサポート体制を整えている。東京メディア芸術学部では、初年次教育を専門にサポートする学生LSの定期的な研修制度も設けている。

看護学部では2020年より、低学年の演習授業科目を4年次生がサポートするSAを導入するための制度の見直しを行った。

#### ⑧FD (Faculty Development)・SD (Staff Development) の実施

大学全体では、計6回のFD及びSDを実施した。このうち5回は外部から講師を招き、1回は教員・職員の研究及び研修活動の一環として実施した。

表13 2019年度のFD・SDの開催状況

実施月	FD/SD 実施テーマ ※は外部講師	参加人数
【東京メディア芸術学部】 (学部IR委員会主催)		
7月	※ FD/SD「高大接続改革の“今”を知る」 学外参加者17名	45名
12月	※ FD/SD「学習障害の理解と支援1」	37名
12月	※ FD/SD「学習障害の理解と支援2」	21名
2月	FD/SD「学生の学びを促す学修評価法」	15名
【看護学部】		
9月	※ FD/SD「ルーブリック評価について」	28名
11月	※ FD/SD「授業研究学習会」	26名

#### ⑨看護学実習について

看護学実習は、学生5名に対し教員1名で臨む実習指導体制を敷いている。実習委員会では、「個人情報の取り扱い」「インシデント・アクシデント・ハラスメントの予防と対応」「ユニホームの改良」などの見直しを行い、効果的な実習を運営するため改善に努めた。また、実習先施設数の不足についても、実習委員の開拓努力により確保することができた。

総合実習では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、看護専門職としての役割を理解させている。また、その役割が医療施設や地域内でどのようにして展開されているかを学び経験することで、幅広い視野を持った看護専門職を養成すべく実施している。

#### ⑩看護学部教養教育推進委員会

看護学部では2020(令和2)年4月から、学部の教養教育の企画・運営に責任を持つ組織として「教養教育推進委員会」を設置することにした。教養教育の主要な目的は、「科学・学問のさまざまな分野について正しく理解し、多様な知識を身につけること」、「広い視野を持って自主的・総合的な判断能力を育成すること」や「豊かな

人間性を養うこと」であり、加えて、生涯にわたり自ら学んでいくための知識基盤や思考方法を学生自身が得ること、言い換えれば、自ら学ぶ態度、常に問題意識を持ち疑問に対して自ら答えを出そうとする力を修得することである。教養教育推進委員会は、これらの教養教育を推進することに加えて、キャリア教育（看護師として自己形成する動機付け）、入学前教育（大学での学びの動機づけ、リメディアル教育）や初年次教育（アカデミックスキルなど大学生としての学びを身につける）の企画・運営を担当する。

### （3）ディプロマ・ポリシーに沿った卒業・修了認定の実施状況

#### ① 宝塚大学のディプロマ・ポリシー

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

#### ② 東京メディア芸術学部のディプロマ・ポリシー

卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士（芸術学）の学位を授与する。

##### 1. 主体的行動力

- 自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

##### 2. 表現力

- 自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

##### 3. 社会貢献力・コラボレーション力

- 組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

##### 4. 課題発見力・課題解決力

- 社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

##### 5. コミュニケーション力

- 自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

##### 6. 専門的知識・技能の活用力

- 学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

#### ③ 看護学部のディプロマ・ポリシー

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

##### 1. 主体的行動力

- 自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

##### 2. 表現力

- 看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

##### 3. 社会貢献力・コラボレーション力

- 自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

##### 4. 課題発見力・課題解決能力

- 看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

- 看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

#### 5. コミュニケーション力

- 自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

#### 6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

- 看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- 多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- 人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

#### ④ 卒業認定・修了認定の実施状況

学部の教授で構成する卒業判定予備会議・卒業判定会議（看護学部の卒業認定及び助産学専攻科の修了認定においては教務委員会）を経たうえで、教授会審議をもとに学長が決定をする。また、大学院研究科の学位請求論文の審査は、学生の研究主題ごとに組織された、資格を有する3人の教員から成る審査委員会によって厳正に行われ、その結果は研究科委員会に報告される。学生の修了認定及び学位授与の可否は、研究科委員会の審議によって最終的に決定している。

#### （4）キャリア教育の実施状況

##### 【東京メディア芸術学部】

授業カリキュラムでは、初年次教育から社会人基礎力を身につけるためのプログラムを実施し、2年次以降は「企業・業界と仕事、就職活動、自己理解」をテーマとした「キャリアデザイン」の授業及び「ポートフォリオ作成のための3D特別講座」を実施した。

個別面談や各種セミナー、企業説明会、就職ガイダンスの実施についても、就職支援委員会で教職員間の情報共有と連携のもと、キャリア教育の学修段階に合わせ、より具体的なサポートが行えるよう取り組んだ。また、留学生の就業意識を強化するため、2年次から面談を行い、日本独自の就職システムの解説や日本語資格試験並びに「N1直前対策講座（2回実施）」の受講促進を進めた結果、3年次のN1資格取得者が19名（34%）となった。

##### 【看護学部】

近年では地域包括ケアシステムの導入により、看護師にも高い技術力とアセスメント力が求められ、かつチーム医療を担うべく他職種との連携ができるコミュニケーション能力が求められている。このように社会の変化に伴い看護師ニーズも変化している。これらを踏まえてキャリア支援委員会では、年次ごとに開講する「キャリアデザインⅠ～Ⅳ（特別講座）」と連携を図りながら、3年次生を対象に就職対策講座、計3種類を実施した。併せて、就職活動支援の一環として、実習施設病院にお越し頂いての、学内就職説明会を実施した。また、卒後対象に年に2度実施をしている「シャトル研修」では、職場でのストレス対応やアサーティブトレーニングを行い合計57名が参加した。その結果、2019年度卒生就職希望者の全員が狭き門となってきている病院施設への就業を果たした。

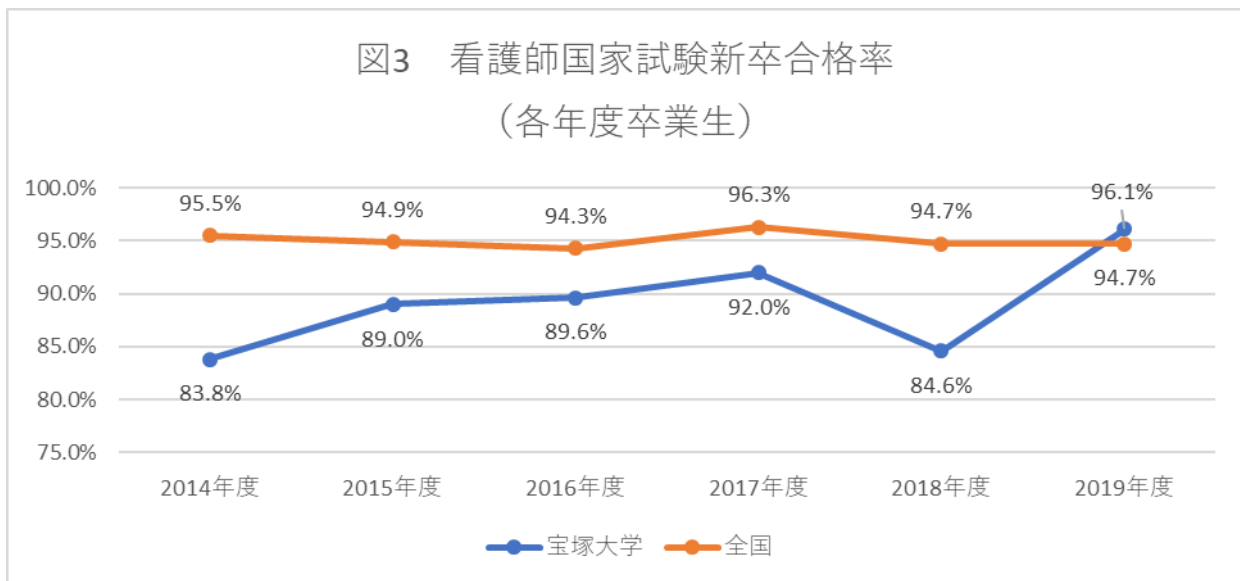
#### （5）国家試験の合格実績

国家試験対策については、国家試験合格率100%を目標に、学内模試や対策講座の実施、低学力学生への個別指導、保護者の協力を得るための懇談会など年次計画に基づき実行した。また、相談員を配置するなど、受験生に向き合う体制づくりも心掛けてきた。2020年3月の看護師国家試験合格率（新卒）は96.1%と、わずかではあるが全国（94.7%）を上回る結果となった。更なる合格率の向上を目指し、改善取組みを行いながら、学生自身が主体的に国家試験対策の学習に取り組めるように支援体制を検討していきたい。

表14 看護師国家試験合格率

年度	区分	看護師			助産師			全国合格率	
		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	看護師	助産師
2015	新卒	127	113	89.0%	5	5	100.0%	94.9%	99.8%
	既卒	20	10	50.0%	0	0	—	35.5%	100.0%
	総数	147	123	83.7%	5	5	100.0%	89.4%	9.8%
2016	新卒	106	95	89.6%	7	6	85.7%	94.3%	93.2%
	既卒	20	8	40.0%	0	0	—	35.6%	55.6%
	総数	126	103	81.7%	7	6	85.7%	88.5%	93.0%
2017	新卒	100	92	92.0%	7	7	100.0%	96.3%	99.4%
	既卒	21	16	76.2%	1	1	100.0%	44.5%	88.8%
	総数	121	108	89.3%	8	8	100.0%	91.0%	98.7%
2018	新卒	91	77	84.6%	9	9	100.0%	94.7%	99.6%
	既卒	12	5	41.7%	0	0	—	29.2%	76.9%
	総数	103	82	79.6%	9	9	100.0%	89.3%	99.9%
2019	新卒	76	73	96.1%	7	7	100.0%	94.7%	99.5%
	既卒	20	9	45.0%	0	0	—	37.4%	71.4%
	総数	96	82	85.4%	7	7	100.0%	89.2%	99.4%

図3 看護師国家試験新卒合格率  
(各年度卒業生)



## (6) 点検・評価

建学の精神・理念、3つのポリシーを踏まえた教授・学習活動が展開されているかどうかについて点検・評価を行い、教育方針やカリキュラムの見直しと充実を図ってきた。また教職員対象のFD・SD研修会を開催してきた。学生や受験生に対してもガイダンスやオープンキャンパス等で本学の方針やそれに基づく教育体制等について説明をしているが、今後とも、より理解が深まるよう丁寧な説明を行っていききたい。

また、学生アンケート調査、学生FD委員会等による意見聴取、学修動向調査アンケート等については継続実施をし、教育指導および教育課程の改善に反映させるとともに、「教育職員自己評価」により教員の自発的な教育・指導の改善を促し、教育・指導環境の充実を図っている。今後とも、教育方法のさらなる研鑽を図り教育の質の維持・向上に向けて、FD活動などの取組みを行っていききたい。

### Ⅲ. 研究活動

#### (1) 公的研究費（科研費等）のコンプライアンス教育等

毎年9月に法人本部事務局による「科学研究費補助金公募要領等説明会」を行なっている。また、民間等による研究費助成については掲示板や回覧を通じて共有している。

科学研究費補助金の交付を受けている研究代表者・分担者、学長、学部長、研究科長、専攻科長、事務長及び科学研究費補助金によって購入された物品等の検収に携わる職員に対しては、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に係るコンプライアンス教育用コンテンツ及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に係る研究倫理教育教材（「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（テキスト版））を受講・通読してもらい「公的研究費の使用にあたっての誓約書」の提出をもって、受講確認をしている。

#### (2) 科学研究費補助金

大学経営の効率化が求められる中、研究費を外部資金に求めることが必要とされている。中でも、文部科学省が所管する科学研究費は、規模も大きく、本学でも全教員が申請するよう働きかけを強めていく必要がある。2019年度の本学教員による科学研究費の採択の状況は、下記のとおりであり、直接研究経費に充当できる直接経費ばかりでなく、本学の財政に寄与する間接経費も少なくない。

表15 科学研究費補助金の交付状況

(単位：千円)

区分	教員氏名	補助事業期間	研究種目	研究課題名	備考
日本学術振興会	上山直美	2017～2019 H29～R1	基盤(C)	父親への育児支援情報を多角的に発信するサービスシステムの普及に関する研究	3,600
					1,080
					1,200
	伊佐夏実	2016～2019 H28～R1	若手(B)	社会的包摂を目指す学校づくりのアクションリサーチ	1,600
					480
					0
	篠田雅人	2018～2021 H30～R3	基盤(C)	人文科学系学士課程教育の教育的意義－社会的レリバンスの質保証の観点から－	3,400
					1,020
					1,000
	合田友美	2019～2021 R1～R3	基盤(C)	新人看護教員を支えるメンタリングを学ぶプログラムの構築	3,300
					990
					1,200
厚労省	日高庸晴	2017～2019 H29～R1	エイズ対策政策研究事業	都市部の若者男女におけるHIV感染リスク行動に関する研究	29,690
					8,907
					11,000

備考欄

上段：補助事業期間全体の直接経費合計

中段：補助事業期間全体の間接経費合計

下段：R1の直接経費合計

#### (3) 学長裁量経費



本学では、教員の研究活動を促進するために、学長裁量経費を設けている。学長裁量経費は、①教育の質の向上、教育改革への取組に資する研究活動に対する助成と、②専任教員の研究領域及び担当科目に係わる研究活動に対する助成の二種類から構成されており、学内からの公募により配分されている。

表16 学長裁量経費の受給状況（2019年度）

	申請者（第1期）			取組課題名	取組実施者	
	所属	職位	氏名		職位	氏名
1	東京メディア	教授	北見 隆	大学教育研究フォーラムにおける本学部教育事例の発表と他大学の教育事例調査	教授	北見 隆
2	東京メディア	准教授	近藤真彰	学士課程教育充実化に関する教育実践例の調査	准教授	近藤真彰
3	東京メディア	准教授	中村泰之	地域連携活動におけるワークショップを通じた学習環境デザインの構想と実践、および研究成果発表	准教授	中村泰之
					専任講師	橋口静思
4	東京メディア	助手	石川雄仁	アートを活用した地域連携ワークショップを通じた教育活動、並びに創造性を引き出すワークショップデザインの研究	助手	石川雄仁
5	東京メディア	教授	櫻木晃彦	学修支援・学修内容の先駆的取組に関する他大学事例研究	教授	櫻木晃彦
					専任講師	橋口静思
6	東京メディア	専任講師	仁藤 潤	高校生及び地域社会へ向けた、ストップモーションワークショップの取り組み	専任講師	仁藤 潤
7	東京メディア	専任講師	橋口静思	地域における文化資料アーカイブ実践ならびに、学外連携におけるワークショップを通じた教育・研究活動	専任講師	橋口静思
					准教授	中村泰之
8	東京メディア	助教	篠田雅人	アメリカの大学における学士課程教育プログラムの学修支援体制に関する事例調査	助教	篠田雅人
9	東京メディア	教授	渡邊哲意	学部の特色を生かした地域連携およびワークショップ環境の整備	教授	渡邊哲意
					助手	松浦李恵
					教務助手	坂口 茜
10	看護	専任講師	西田千夏	乳児と母親が模擬患者として参加する小児看護学技術演習の実施	専任講師	西田千夏
					准教授	合田友美
					助手	林 朋博
					准教授(助産)	小神野雅子
		助教(助産)	中尾幹子			
11	看護	教授	中川ひろみ	看護における体位変換技術の暗黙知を形式知化する学習教材開発への取り組み	教授	中川ひろみ
12	助産学専攻科	助教	中尾幹子	助産師学生を対象とした周産期グリーンケア教育前準備の取り組み	助教(助産)	中尾幹子
	申請者（第2期）			取組課題名	取組実施者	
	所属	職位	氏名		職位	氏名
13	東京メディア	助教	神林 優	作品アーカイブ充実のための複写（撮影用）機材導入と効果検証	助教	神林 優
14	東京メディア	助手	松浦李恵	デジタル工作機械を用いた情報の授業に関する実証実験の分析	助手	松浦李恵
15	看護	教授	尾ノ井美由紀	高機能発達障害児養育者支援に関する研究	教授	尾ノ井美由紀
16	看護	准教授	合田友美	学生の社会性と自主性の涵養を目指すボランティア活動の教育的支援	准教授	合田友美
					専任講師	西田千夏

(4) 研究倫理審査状況

研究活動が何らかの社会性をもち、かつその成果が社会に影響を与える時に、社会がその成員とりわけ科学者集団に対して、何らかの規範を与えて、それを適切に制御することが必要となる。最近では、捏造や盗用などの研究成果の不正利用の防止などが社会的な話題となることも多い。特に、看護学部では、患者に対する臨床研究に対して、「ヒトを対象にした医学系研究に対する倫理指針」が適用され、患者に対する介入や資料・情報の採取を行う場合には、事前に患者の同意を得ることが不可欠とされる。このため、看護系の研究に対しては、臨死審査委員会の倫理審査を受けることが求められることが多い。下表は、看護学部の研究倫理委員会が審査した件数を示す。

表17 研究倫理審査の状況（看護学部）

年度	申請者	申請件数	内訳				
			迅速審査	承認	不承認	非該当	継続審議
2017	教員（専門）	17	0	12	1	1	3
	教員（他）	3	0	3	0	0	0
2018	教員（専門）	9	1	5	1	0	3
	教員（他）	3	3	3	0	0	0
2019	教員（専門）	7	2	5	0	1	1
	教員（他）	3	3	3	0	0	0

#### (5) 大学紀要の発行

教員の個人教育・研究業績を掲載した「宝塚大学紀要」は年1刊の発行としており、2020年3月版（2019年度の実績報告）で33冊目の発刊となる。2019年度は、東京メディア芸術学部、メディア芸術研究科、看護学部・助産学専攻科が合同で編集し発刊している。

表18 宝塚大学紀要 No.33（2020年3月31日発行）

東京メディア芸術学部		
論文	「アリアドネの糸が紡ぐ古代ヘレニズム-ローマ文化と17世紀オランダ文化-飽食ととめどない雑談」	勝又俊雄
	「表現の自由」の不自由性-メディアアートと世論・テロリズム・政治	田淵俊彦
	過保護からの離脱における在日美術系中国人留学生の問題とその対策-宝塚大学中国人留学生の調査結果を中心に-	李 春
研究報告	『ある運動によって残された痕跡の記録 「視覚性」を保留し「視覚」の経験を想起させる試み』	神林 優
	2Dアニメーション制作における指導方法-近年の実施報告と改善-	川上 遥
	イタリアの漫画及び漫画教育の現在	竹内一郎・二宮正義
	漫画的表現の有用性について-情報番組でのイラスト制作を例に-	中里智美
	ものづくりのための学習環境デザイン：高校情報科へのデジタル工作機械の導入	松浦李恵
	The human evolution from the view point of Artistic Anatomy - focusing on the gluteus maximus muscle of the human body	Akihiko SACRAGI
看護学部・助産学専攻科		
実践報告	プレパレーションツールを作成する小児看護学演習の実際と学生の学び	合田友美・西田千夏・林 朋博

#### (6) 点検・評価

コンプライアンス教育研修については、毎年9月・10月に教員を対象に実施している。2019年度は科学研究

費補助金 4 件（うち新規採択が 1 件）、学長裁量経費 16 件が採択され、看護学部の研究倫理審査では 10 件の申請に対し 8 件が承認された。また、大学紀要の発行を通じて、教員の教育研究の成果を研究報告、活動報告として発表している。科学研究費補助金の採択まではハードルが高いという実務系の若手教員に研究・論文作成を促すため、学長裁量経費への応募を促進した。教育・研究活動への取り組みとその成果報告は、教員と教育の質向上に必要不可欠であるとの認識と自覚を促していく。

#### IV. 学生支援

##### (1) 学生支援の主な取組み（学生相談室・学修支援要員・チューター制度・学修支援室）

###### ● 学生相談室

近年、精神的悩みを抱えている学生も多い。本学では臨床心理士など専門家によるカウンセリングを実施している。

###### 【東京メディア芸術学部】

メンタルケアについては近隣のメンタルクリニックと提携し、学生の事情に合わせて医師と相談できる場を設けている。また、相談希望者が増えてきたため、後期より相談員（臨床心理士）による学生相談日を増やし（週3日）で対応した。特に学生の個人情報には十分に配慮したうえで、必要に応じて保護者や担当教員と連携しながら学生支援につなげている。

表19 学生相談室の状況

学生相談室	開室日数		開室時間	2019年度 相談件数
	週	年間		
東京新宿キャンパス	週2～3日	88日	10：00～17：00	144件
大阪梅田キャンパス	週1～2日	66日	(木) 12：00～18：00	133件
			(土) 12：00～16：00	

###### ● 学修支援要員・サポート制度の運用状況

###### 【東京メディア芸術学部】

SA（スチューデントアシスタント）とLS（ラーニングスタッフ）の制度を設けている。SAはコンピュータ科目などの実技系授業における学生サポートを担っている。また、初年次教育をサポートするLSは上級生より選抜し、コーチング研修などのトレーニングを行いメンター役として新生をサポートしている。2019年度より「東京メディア芸術学部ラーニング・スタッフの運用に関するガイドライン」を制定し実用的な運営体制を図った。

###### ● チューター制度・学修支援室

###### 【看護学部】

専任教員で構成したチューター制度を設け、チューター1名あたり15名程度の学生を1年次から継続的にサポートしている。各ガイダンスの履修期間内には、GPAをもとに単位修得状況を確認しながら、マンツーマンの履修指導を行い、欠席が多い学生に対しては個別面談による学習継続を促す支援をしている。また、国試及びキャリア教育のために、教職経験者を学生支援員として複数配置している。

看護学部では、2020年4月から、室長1名、専任職員1名からなる「学修支援室」を設置し、就学に問題を抱える学生への個別支援を充実させることを目指している。学修支援室は、学生委員会やチューターと密接な連携をとりながら、一人の中退者も出さないことを目標に、学生一人一人に寄り添い、きめ細かな対応を図ることを目指している。

##### (2) 奨学金制度

従来からある、「宝塚大学奨学金制度」のほかに、近年、奨学金制度を拡充してきている。

東京メディア芸術学部では、2018年度から「スカラシップチャレンジ制度」を発足させ、入学前から予約できる制度として、授業料を全額または半額免除する制度を導入した。加えて、就職に有利となる各種検定試験の資格取得学生、日本能力試験N1取得学生、実家が遠方のため一人暮らしをしている学生に対してそれぞれ支援金を支給する「支援金制度」を導入した。この制度は条件を満たせば希望者全員が支援を受けることができるため、今後、各種検定試験受験への動機づけ、遠方からの受験、入学の動機づけに繋がっている。

看護学部では、学部独自の奨学金制度として2019（令和元）年度から、一般入試（第1期）の成績が1位・

2位の学生で入学意思のある者に対して4年間の学費を免除する「特待生A」と、学内成績が優秀な学生6名（1年次は一般入試（第1期）入試成績が3～8位）を対象に1年間の学費の半分を免除する「成績優秀者特待生」制度を導入した。これらの奨学金に対する関心は高く、本学を志願する者の増加につながっている。

表20 宝塚大学独自の奨学金及び給付額等の実績（2019年度）

【宝塚大学奨学金制度】

種 類	応募数	採用者数	給付実績額	採択率
1. 一般奨学金制度	56名	31名	930万円	55.40%
2. 特別奨学生制度	24名	11名	850万円	45.80%
3. 創作・研究活動奨励制度	3名	2名	20万円	66.70%
	(奨学金の給付額計)		1,800万円	全体 53.0%

※給付額〔一般奨学金30万円 / 特別奨学金75万円・80万円 / 創作・研究活動奨励金10万円〕

【スカラシップチャレンジ制度（東京メディア芸術学部）】

種 類	応募数	採用者数	減免対象者	採択率
スカラシップチャレンジ制度 (入学前予約型奨学金制度)	8名	8名	①全額免除3名 ②半額免除5名	100.00%

※減免額〔①授業料全額免除90万円 ②授業料半額免除45万円〕

【支援金制度（東京メディア芸術学部）】

種 類	応募数	採用者数	給付実績額	採択率
1. 留学生日本語試験支援金	19名	19名	57万円	100%
2. 資格取得支援金	12名	12名	12万円	100%
3. 一人暮らし支援金	6名	6名	140万円	100%
	(支援金の給付額計)		209万円	全体 100%

※給付額〔留学生日本語試験支援金3万円 / 資格取得支援金1万円 / 一人暮らし支援金24万円〕

【成績優秀者特待生制度（看護学部）】

種 類	応募数	採用者数	減免実績額	採択率
特待生A		1名	160万円	
特待生B		4名	320万円	
	(特待生制度の減免額計)		480万円	

(注) 看護学部の特待生は、2019年度入学生については、一般入試の受験者（144名）を対象に、上位2名を特待生Aに、次の6名を特待生Bの候補者として選考した。その後、Aから1名、Bから2名の辞退者が出たため、実際に学費の減免を受けた人数は、それぞれ、1名、4名となった。

(3) 学生自治会、サークル等のクラブ活動

【東京メディア芸術学部】

サークル活動を促進するため、公認サークル、同好会、任意団体の3種類を設け、自治会費から活動補助資金を支給している。公認サークルでは、軽音、コスプレ、まっちゃぶ、グループ創造、イラスト研究会の5つが継続的に活動している。また、選挙で選ばれた学生による自治会が毎年度、新規に発足し、新入生歓迎会、宝翔祭など学生主体のイベントを自主的に運営している。

【看護学部】

2019年度9月には初めて大阪梅田キャンパスで宝翔祭（大学祭）を実施した。屋台やおぼけ屋敷といった出し

物を1～2年次生が主導で行った。また、サークルについては、野球・フットサル・茶道・フラワーセラピー・ボランティア・ちんどん・軽音の7サークルがあり、学内外での有効な活動ができるよう支援を行っている。

#### (4) 保護者対象の教育懇談会

毎年、学部単位で在籍学生の保護者を対象に教育懇談会（保護者懇談会）を実施している。

各学部の教育内容、年次ごとの単位数修得の基準、就職支援と就職実績等について説明し、希望される保護者には教職員及びキャリアセンター職員と個別面談をしている。アンケート結果は教授会等で報告し、保護者の意見も踏まえながら教育活動や学生指導に反映できるように教職員間で共有をしている。

表21 2019年度教育懇談会（保護者懇談会）の実施状況

	開催日	参加者数・組
東京メディア芸術学部	6月9日	58名
看護学部	5月25日	19組

#### (5) 留学生支援の体制（東京メディア芸術学部）

2018年度の入試状況から留学生の増加を予測し、留学生支援体制を強化してきている。学務課に留学生支援係を置き、専門職員2名及び留学生担当教員2名を配属している。初年次教育では語学能力別の留学生クラスを設置した。留学生保護者にはウイチャットによる連絡報告を定期的実施している。さらに学生生活の不安軽減を図るため、1年次から全員と個別面談を行い、学習満足度アンケート調査を実施している。また、日本語能力向上支援のため「日本語会話Ⅰ・Ⅱ」及び休憩時間中の「日本語会話ルーム」を設置した。さらに2年次から面談を行い「N1試験対策講座」促進と日本語学習の進展状況を個別に確認している。

#### (6) 点検・評価

学生生活の満足度を高めるために、学生や教職員から出された意見についても、学部ごとの各委員会や教授会で協議したものを必要に応じて副学長・学部長が取りまとめ、管理運営協議会で審議・執行できる体制になっている。保護者を対象にした教育懇談会は、各学部の開設当初より、全教職員体制のもとで毎年継続的に実施しており、保護者との連絡や協力を得ながら教育活動を進めている。また、学生相談の希望者が増えてきた現状を踏まえて、2019年度より両学部とも、相談日を増やす態勢にしている。

今後とも、就学面での支援にとどまらず、経済的支援、生活面や心身の健康面に関する支援など、きめ細かい対応を心がけ、学生一人一人が満足して安心・安全な学生生活を送れるよう、生活全般における支援を拡充していきたい。



## V. キャリア支援体制と卒業生の進路状況

### (1) 学部生・大学院生・留学生へのキャリア支援

#### 【東京メディア芸術学部】

就職支援委員会を中心に年次別のキャリア支援計画に沿って、教職協働体制のもとで学生情報の共有を図りながら、学生個々に対して具体的・個別的なカウンセリングを行った。また、就活に必要なとされるポートフォリオ作成についても、アーカイブ計画のもとに、初年次教育から指導を行っている。学内でのクリエイティブ系企業の会社説明会（12社）を行い、2017年以降4年連続で就職内定率は9割を超えた。

#### 【看護学部】

看護学部生の増加や離職率の減少などの社会の変化に伴い、他職種との連携ができる能力など看護師として求められるニーズも変化している。学生の希望する病院施設等への就職も年々厳しくなっているため、就職に関するイベントは前年度よりも講座数を増やして実施した。就職試験で問われる「実習目標を達成する行動への取り組み」と、それを伝えられる「言語表現」能力が求められているため、「就活スタートアップ講座」「就職・施設説明会」「履歴書・面接対策講座」等への参加率100%を目標に進めていく。

#### 【留学生】

留学生は日本語能力の問題や職種が限られるなどの制限もあり、東京メディア芸術学部においても就職率は3割前後である。そのため2018年より、年次別留学生支援計画をたて、「N1試験資格対策講座」を2回実施した。さらに2年次留学生対象に年2回の就職事前面談を行い、東京外国人雇用サービスセンターと連携しながら、日本での就活サポートに取り組んだ。

### (2) 進路状況と就職先

表22 2019年度卒業生の進路状況（2020年5月1日現在）

	東京メディア 芸術学部	看護学部	メディア芸術 研究科（修士）
卒業生数（9月卒業含む）	52名	78名	9名
進学者	4名	5名	0名
就職者 （就職希望者数）	35名 (37名)	70名 (70名)	5名 (8名)
卒業後就活継続者	2名	2名	3名
その他（未就職者・帰国等）	11名	1名	1名
就職率（就職者/就職希望者数）	94.6%	100%	62.5%

#### ● 進路先（就職先企業・病院など特色）

#### 【東京メディア芸術学部】

就職率は4年連続で90%を超えたが、卒業生に占める就職者の割合は67.3%（前年度は76.5%）であった。就職内定者の職業種別では、クリエイティブ系19.4%、一般職種80.6%となり、今年はアニメ・ゲーム・デザイン・映像制作などのクリエイティブ系企業への志望者が少なかった。

なお「その他」は、母国への帰国及び特定活動の留学生（卒業後に日本で就活する在留許可申請）や未就活の学生である。

#### 【看護学部】

大学病院や企業系病院などのへの就職は、採用人数の絞り込みもあり就業が厳しい中で、2020卒学生の希望者全員が病院への就職を果たすことができた。

その他の3名は、国家試験に不合格ではあったが、うち2名が内定先病院で看護助手及び受付担当としてそれ

ぞれ勤務することとなった。

#### 【メディア造形研究科】

大学院研究科は就職希望者 8 名中で内定した学生 5 名であった。職種はゲーム制作、デザイン制作及び販売、生産工程等であった。大学院生についても早期から就活準備をした学生の内定率は高いと言える。

#### (3) 点検・評価

東京メディア芸術学部では、就職支援委員会を核に教職協働による情報共有・サポート体制を作り、学生個々の特性を把握したうえで、きめ細かいキャリアカウンセリングに取り組んだ結果、4 年連続で 95% 前後の就職内定率につなげている。

日本学生支援機構の調査では、留学生の日本での就職状況は 3 割～4 割程度であり、厳しい現実は変わらない。東京メディア芸術学部の 2022 年卒生のうち、約半数が留学生のため、就活希望者に対しては、3 年次から進路選択を明確にさせて早期からキャリア支援を行っていく。

看護学部では看護師国家試験合格の取組みと併せて、希望する就職先につなげられるよう支援をしており、国家試験合格者は全員が就職を内定させている。



## VI. 図書館の整備と利用状況

### (1) 図書資料の所蔵状況と施設・設備と利用状況

表23 図書資料の所蔵状況と施設・設備の状況

#### 【施設の実態】

施設（2020年3月31日現在）

	用途別面積 (㎡)			閲覧座席数
	サービス スペース	管理スペース	合計	(席)
宝塚	881	415	1,296	266
梅田	291	25	316	90
新宿	249	13	262	52
合計	1,421	453	1,874	408

#### 【図書、雑誌】

蔵書数（2020年3月31日現在）

	図書	雑誌	電子 ジャーナル
宝塚	62,118	356種	0
梅田	15,726	99種	9
新宿	20,957	30種	0
合計	98,801	485種	9

#### 【視聴覚資料】

視聴覚資料・機器数（2020年3月31日現在）

	マイクロ フィルム	カセット テープ	ビデオ テープ	CD・LD・VD・ DVD-ROM・ レコード	スライド	合計
宝塚	1	56	1,035	1,152	4,373	6,617
梅田	0	0	34	735	0	669
新宿	0	0	18	2,403	0	2,421
合計	1	56	1,087	4,290	4,373	9,707

#### 【2019年度図書館利用状況】

(貸出冊数)

宝塚	57
梅田	5,485
新宿	1,114
合計	6,656

(開館時間)

	平日	土曜	長期休業 期間中	看護実習 期間中
宝塚	9:00~ 17:00			-
梅田	9:00~ 20:00	9:00~ 17:00	9:00~ 16:45	9:00~ 20:00
新宿	9:00~ 20:00			-

## (2) 点検・評価

各キャンパスの図書館において、学生選書、教員選書コーナーを設けるなど利用者の意見を反映した蔵書・選書を実施している。

東京新宿キャンパスでは、貸し出し等利用率の向上を図るため、雑誌書架の配置見直しを行い、分野をまとめて学生の検索がしやすくなるよう便宜を図った。また、図書館入口近くの軽読書コーナーに英語多読資料コーナーを設置し、図書館の利用方法についてガイダンスを実施した。

大阪梅田キャンパスでは、学外からの学習を支援するため、電子書籍のパスワードの配布を行い、オープンサイエンス化に対応すべく検索エンジンの URL をまとめた一覧を作成・配布した。

宝塚キャンパスの図書館については、造形芸術学部廃止に伴い、蔵書等の利活用について検討する。

## VII. 施設・設備等

### (1) 施設・設備、教育環境の改善・整備等

東京新宿キャンパスは、キャンパスビル自体が老朽化しており、改修計画策定のもとで昇降機 3 基中 2 基の改修工事を行い、老朽化した 202 教室のプロジェクターを更新した。また科目「音響制作」「音楽」使用ソフトウェア導入、PC の不具合が頻発していることから、業者にメンテナンスを委託し、教育環境の充実を図った。

大阪梅田キャンパスは、超音波診断装置の導入、502 教室のプロジェクターの更新及びキャンパス内 Wi-Fi 環境の整備など学習環境の充実を図った。

[教育環境整備等のための事業費]

【東京新宿キャンパス（東京メディア芸術学部）】

● キャンパス昇降機改修工事	事業費	32,400 千円
● 「音響制作」「音楽」使用ソフトウェア	事業費	2,374 千円
● 202 教室プロジェクター更新	事業費	969 千円

【大阪梅田キャンパス（看護学部）】

● キャンパス内 Wi-Fi 環境整備	事業費	6,053 千円
● 502 教室プロジェクター更新	事業費	3,049 千円
● 超音波診断装置の導入	事業費	1,944 千円

### (2) 点検・評価

建物は、宝塚キャンパスは大学設立当時の施設（本館の一部・円形棟）が築 33 年、大阪梅田キャンパス、東京新宿キャンパスはそれぞれ築 18 年、築 26 年となり、経年劣化に伴う計画的なメンテナンス・改修の実施が不可欠となっている。

設備については、今後、教室の LED 化、ネットワークの大規模改修、PC 機器の更新など、在学生に快適な学修環境と学生生活環境を提供することを目的に、計画的な整備を進めている。

東京新宿キャンパスでは、学外企業への 1 階賃貸部分の契約解除に一部を残し合意し、今後の環境・設備の更なる充実を図る予定である。

## VIII. 危機管理体制

### (1) 防災体制・安全対策・危機管理体制

大規模災害をはじめとする危機管理体制は、学校法人関西女子学園危機管理規則に準じて編成されている。自然災害・人的災害・保健衛生・経営管理等、発生する可能性のある諸般の事情に伴う危機に迅速かつ的確に対応するため、情報伝達のルートとして本学管理職緊急連絡網等を利用し、情報を法人本部事務局長および大学事務局長へ集中一元化するシステムとなっている。各キャンパスにおいては、毎年、教職員・学生による避難訓練を実施し、火災等に対する避難誘導や初期消火の対応ができるようになっているとともに、緊急対応食料・備品等

の備蓄品目を毎年点検し計画的に設置している。

新型コロナウイルス感染症への対応については、2020年1月28日の政府による法上の「指定感染症」の指定（2月1日施行）にあわせ、理事長、学長の指揮のもと管理運営協議会で適宜対策を講じながら、本学ウェブサイトによる感染予防のための注意喚起や本学の行事等への対応について情報提供や周知等を行った。加えて2月29日からは、本学の受験生・入学予定者への対応を含む総合専用サイトを設け、集約化を図った。

## （2）点検・評価

近年、地震や暴風雨等による自然災害が多発しており、首都直下地震並びに南海地震に備えた防災対策の整備が喫緊の課題となっている。緊急対応マニュアル等について教職員への周知徹底を行うとともに、危機発生時は対応する教職員も被災者になる可能性もあるので、現行の規程・マニュアルを原則にして柔軟にかつ迅速・的確な対応ができるよう見直しを進めていく。そのため、災害対応マニュアルの作成、安否確認システムの構築、防災備蓄体制の整備等を行う。

また、ハラスメント防止をはじめとする法令順守（コンプライアンス）についても、規程や態勢を整備し法令順守の周知を図るとともに、事案が発生した時の初期対応等について適正に対応していく。

新型コロナウイルス感染症への対応については、理事長・学長の指揮のもと大学全体の対策方針を決定するとともに、両学部で学部対策本部を設置した。2020年2月1日に学生・教職員に注意喚起するとともに、学位記授与式の簡素化、入学式をはじめオープンキャンパス・種々のイベント等の中止を決めた。

2020年度については、4月1日に新型コロナウイルス感染症対策本部及び各学部対策本部を設置し、理事長、学長の指揮のもと、危機事象に対処するとともに学部対策本部を統括している。

今後とも、本学の学生・教職員等の健康・安全・安心を確保することを第一に考えながら、2020年度の授業等、本学の運営について関係各部署が連携して万全の体制のもとで対処していくとともに、引き続き迅速で的確な情報提供や周知等を行うよう取り組んでいく。

## IX. 広報活動

### （1）主な広報活動

広報活動を戦略的にかつ全学的な統一性をもって展開するため、法人本部に「広報・企画室」を設けた。そのもとで、大学ホームページを抜本的に改善するため、業者と契約し、かつ法人及び両学部の入試並びに広報の委員会と協議を進め、リニューアルを実現した。

東京メディア芸術学部では、YouTubeにおいて卒業生や教員を使った広報映像を配信することで潜在的ターゲット層に向けて本学の認知度を上げることに成功し、志願者数の増加につなげることができた。また、新たな受験層の開拓として、遠方でも資料請求が多く関連学科のある高校については高校訪問の対象とし、一都三県にとどまらず茨城、栃木を含む北関東、および大学の知名度がある大阪、兵庫まで訪問範囲を拡大した。さらに、前年度からの継続と新規で3校と高大連携協定を締結した。また、のべ31校に対して高等学校への出張授業・受入れ授業を実施し高校生との接触を図った。入学定員130名に対して、入学者は136名（2020年4月入学）となり入学定員の充足を図ることができた（2019年度入学者は134名）。

看護学部では、受験生に効果的に届くWEB・SNSメディアによる広報を強化するため、昨年度以上に広報予算を大胆に傾斜配分して配信を強化した。この結果、看護学部ホームページの閲覧数が増加し、資料請求数と志願者数の増加につなげることができた。高等学校との信頼関係を強化すべく昨年度に引き続き高校訪問を強化し、ターゲット校を中心に高校訪問の回数を増やした。関西圏を中心にのべ364校に訪問してオープンキャンパスへの参加・出願促進を行った。また、高校内ガイダンス・進学相談会への参加や高大連携講義の実施などを通じて、高校3年生などの受験生のみならず、1・2年生などの低年次生に対しても本学の認知を広げることができた。入学定員100名に対して、入学者は105名（2020年4月入学）となり入学定員の充足を図ることができた（2019年度入学者は105名）。

## (2) 点検・評価

法人本部に設置された広報・企画室においては、学部で行っている魅力ある授業や取り組み内容をはじめ、本学の教育研究活動がきちんと学外に伝わっていくよう、連携・協力して進めた。また、さまざまなステークホルダーに本学の情報、取り組みを伝えるなど、広報の中核的役割を果たしているWEBサイトを、動画を効果的に取り入れながらさらなるイメージアップを図るなど、全面的にリニューアルした。特にトップページから各ページにアクセスしやすい形にするとともに「ニュース」「イベント」「社会連携」等を各学部からより多く発信できるよう努めるなど、情報・コンテンツ発信をととしてブランド価値の向上を図る。

IT化が加速する社会においては、スマホ・PCが情報発信・共有・拡散のツールとなっており、受験生層にダイレクトに伝わる効果の高い情報発信をめざす。

また、学生募集広報をはじめとする広報活動をより一層充実強化するなど、本学がさらなる飛躍・発展を遂げるための行動指針として広報戦略を取りまとめる。

## X. 地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献

### (1) 各キャンパスの取り組みと活動実績

表24 地域連携（社会貢献） 2019年度の活動実績

#### 【東京メディア芸術学部】

1	2019年5月～11月	谷川岳（群馬県利根郡）にて「デジタル掛け軸」プロジェクトマッピングを演出
2	2019年7月	ひたちなか市立那珂湊第一小学校にてヘッドマーク+BANKOKKI制作ワークショップ開催
3	2019年7月	小中学生を対象にしたUnityゲームプログラミング教室『ゲームビットジュニア』開催
4	2019年7月	LINEスタンプ「伊那バス&伊那谷公式キャラクタースタンプ」をデザイン（伊那バス株式会社との産学連携事業）
5	2019年7月	公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団が主催するイベントのポスターをデザイン
6	2019年8月	鎌倉（神奈川県）で活躍する2団体のイベントチラシなどをデザイン
7	2019年8月	新宿区のアートイベント「新宿クリエイターズ・フェスタ2019」出展
8	2019年8月	「第62回伊那まつり」にて、産学連携事業の取り組みを展示（伊那バス株式会社との産学連携事業）
9	2019年9月/2020年1月	東京2020大会を普及するため、新宿区と共同でワークショップを開催
10	2019年9月	大学近くにあるビルのシャッターにイラストを描く
11	2019年10月	新宿警察署が主催する清掃ボランティアに参加
12	2019年10月	デザインを手掛けた「“恋姫”ラッピングバス」が運行開始（伊那バス株式会社との産学連携事業）
13	2019年10月	東京2020大会をPRするラッピングデザインを新宿区内の全出張所に設置
14	2019年10月	新宿区主催のイベント「しんじゅくシティウォーク2019」にてチラシデザインやブースの出展で協力
15	2019年10月	シンガーソングライター町あかりさんの販売促進用動画の撮影・編集を手掛ける
16	2019年11月	「ASIAGRAPH2019」設営協力
17	2019年11月	静岡県伊東市内の商店街にプロジェクトの最後を飾るトリックアートを設置
18	2019年11月	共同デザイン制作の広告が「信毎広告賞」特別賞を受賞（伊那バス株式会社との産学連携事業）
19	2019年12月	富士コス2019で、下駄・擬人化キャラ“水鳥ここん”柄の下駄を発表（株式会社水鳥工業との産学連携事業）
20	2019年12月	新宿区主催「東京2020オリンピック・パラリンピック」250日前記念イベントに協力
21	2020年1月	ゲームを学ぶ学生達の作品展示会『GamePit Tokyo(ゲームビット)』開催
22	2020年1月	渡邊教授が審査委員長を務めた新宿区絵画コンクール作品の除幕式に参加

#### 【看護学部】

1	2019年4月	大阪府健康医療部 性感染症予防講習会会場提供と教員による講演を実施
2	2019年6月	100万人のキャンドルナイト茶屋町スロウデイ 学生キャンドル作品出展
3	2019年9月	大阪市保健所 学校におけるHIV/エイズ・性教育講習会会場提供と教員による講演を実施
4	2019年11月	大阪市北区役所・大阪市北消防署 地域防災訓練に教職員・学生が参加
5	2020年2月	NPO法人 芸術と創造協会関西支部 あそびとおもちゃのお祭りKANSAIおもちゃFESTIVAL2020 in 宝塚大学大阪梅田キャンパス教員と学生が参加

## (2) 点検・評価

東京メディア芸術学部は、学外連携担当教員を中心に東京都新宿区と学外連携協定を結び、地域の健康づくり普及啓発の活動やオリンピック・パラリンピックの啓蒙・普及活動等に参画している。また一昨年度は、伊那バス株式会社との産学連携事業協定を締結し、ラッピングバスやロゴデザインを開発するなど企業のブランド力向に協力した。さらに常時プレスリリースによる情報発信を行い、学部教育の特色でもある学外連携活動の広報を行なった。

看護学部では、地域行政と連携した講演会やイベントを大阪梅田キャンパス内で開催した。学生のボランティア組織や宝翔祭実行委員会を中心に、地域・学外連携活動に主体的に取り組んだ。また、メディア・マスコミ等に報道された研究活動も昨年度と同様に増えてきている。

学外で行う展示イベントや自治体・企業と連携した創作活動に参加することは、学生が社会と接する体験の場となり、その後の学生生活や就職活動に向けて、学生自身の自己肯定感を高められる貴重な経験の場になっている。

## **XI. 管理運営**

### **(1) 管理運営体制**

学校法人と、法人が設置した大学の適正かつ円滑な管理運営を期するため、管理運営規程の主旨に基づき理事長、学長を中心とした管理運営協議会を設置し、法人及び大学の重要事項について審議するとともに情報の共有化を図り、意思決定事項の速やかな執行を行う機関として機能させている。開催日は原則隔週月曜日とし、2019年度は大阪梅田キャンパスで計24回開催した。構成員は、理事長、学長、副学長、担当理事、大学事務局長、法人本部事務局長及び適宜、理事長が必要と認めて指名を受けた教職員である。管理運営協議会で決定された事務管理等にかかわる事項は、大学事務局長、法人本部事務局長、副学長を通して各キャンパスの事務長に共有されている。

### **(2) 自己点検評価体制**

#### **① 自己点検評価の仕組み**

自己点検・評価委員会規程に基づき、学内に自己点検・評価委員会を設置している。

毎年6月に自己点検・評価報告書（アクレディテーション）にまとめ、その実施状況と評価結果について、第三者の有識者からなる「大学評価審議会」で審議を行い、その審議結果は理事長・学長に意見答申する体制としている。

委員会の任務（第3条）は、「本学学部及び大学院における教育課程、教員組織、教育・研究活動、学生の受入れ、施設設備、管理運営体制、社会との連携及び自己点検体制等について絶えず現状を性格に検討・把握し、逐次改善するための点検・評価を行い、報告書を作成する」。

開催日は学部長等会議と同日の隔月で実施しており、2019年度は5月の自己点検・評価委員会準備会と、6月、7月、10月、12月、2月の計5回、合計6回開催した。

#### **② 2019年度の主な審議内容**

##### **1. 「2017～2021（平成29～令和3）年度 経営改善計画」について**

- 2017年度に、文科省の指導を踏まえ、財務面に重きを置いた経営改善に取り組むこととするため、2015年度に策定した中期計画の再点検・総括を行った上で、新たな目標を設定した経営改善計画を同中期計画の後継計画と位置付け、2017年3月に策定し、実行してきたところである。2019年度には経営改善計画の中間年を迎えることから、中間報告としての総括と同計画の後半に向けての改訂を行い、最終的に「中期計画（経営改善計画 改訂版）」としてまとめた。

##### **2. 認証評価について**

- 2015（平成27）年度に受審した認証評価で付された改善意見・参考意見に対する対応状況の確認と第3期認

証評価受審に向け、スケジュール等の確認を行った。

### 3. 内部質保証の方針・規程について

- 内部質保証に関する規程の制定に向けての調整を行った。

#### 【2019年度自己点検・評価委員】

山川学長、南部副学長、雨宮副学長、成山常勤理事、北見東京メディア芸術学部長、澤田看護学部長、渡邊学務部長、日高入試部長、櫻木図書館長、加藤法人本部事務局長、小原事務局長、谷口事務局次長、中島梅田事務局長、矢富広報企画室長（8月以降）、田中（和）広報企画室次長

#### ③ IR活動の推進について

教学ばかりでなく、経営についても「エビデンスに基づく運営」が大学には求められている。それを中心的に担うのが、IR (Institutional Research) 部門である。

2018年9月にIR担当常勤理事を座長として全学IR推進会議を発足させた。2019年度については、(経営IR部会・教学IR部会を擁する)全学IR推進会議、各学部IR推進委員会、法人本部IR推進委員会からなるIR組織の形成、IR活動を行うための「個人情報保護に関する規程」の制定など、IRに関する基盤整備を行った。

#### (3) 大学評価審議会

本学の教育研究水準の向上を図り、本学の教育目的と使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営について、第三者評価を行うための大学評価審議会を設置している。構成員となる委員は理事会で選出された外部の学識経験者をもって組織され、委員代表と委員副代表を置いている。毎年開催する審議会では、自己点検・評価報告書をもとに審議を行い、審議結果を理事長に答申している。理事会は答申により改善等の具体化について適切な措置を講じ、次年度の大学評価審議会で報告を行う。

大学評価審議会は1992年の大学開設以来、毎年開催しており、第2期大学認証評価では「優れた取組み」として評価されている。

表25 2019年度 宝塚大学 大学評価審議会委員

氏名	経歴
西村 嘉郎 (委員代表)	朝日放送 特別顧問 元 朝日放送(株) 代表取締役社長
田淵 晋也	大阪府立大学名誉教授 宝塚大学名誉教授
野村 正朗	帝塚山学院理事長 元 (株)りそな銀行 代表執行役社長
日笠 修宏	元 朝日新聞社取締役・常勤監査役
リボウィッツ よし子	新潟青陵大学 学長・理事 元 大学設置・学校法人審議会委員
武 幸太郎	内田洋行グローバルリミテッド代表取締役社長 元 内田洋行(株)取締役専務執行役員
高田 哲	神戸市総合療育センター診療所長 元 神戸大学医学部保健学科 教授
山口 義久	大阪府立大学 名誉教授 元 宝塚大学副学長・研究科長

#### (4) 点検・評価

大学自身が自らの責任でもって教育研究活動等について多角的な視野から振り返りを行い、その質の改善・向上を目指した取り組みをするとともにその結果を社会に向けて明確に示していく必要があり、その全てについて、的確な判断とスピード感が問われる。2019年度は、中期計画（経営改善計画）等、これまでの計画と見直しと実際の振り返りを行い、今後に向けての体制づくりに努めた。今後は更にエビデンスに基づく将来計画を進めていくとともに、きちんとPDCAサイクルを回し、自己点検・評価の仕組みの精度を上げていく取り組みが必要である。

## XII. 財政

### (1) 財務面からみた中期計画（経営改善計画改訂版）最終年度の目標

本学は、2012（平成 24）年度以降、資金収支の面でも経常収支の面でも赤字が続いてきたが、最大の赤字要因であった造形芸術学部について、2016年度募集を停止し、2018年度末をもって廃止が完了した。また、2012年度以降、收容定員充足率が100%を下回っていた東京メディア芸術学部についても、2018年度から2020年度入試にかけての3年間にわたって、ほぼ入学定員が充足でき、中期計画の最終年度である2021（令和 3）年度には收容定員充足率も100%を上回る見通しが確保できた。さらに、この間、借入金の返済に努め、2016年度をもって長期・短期全ての借入金を返済し、無借金経営に転換することができた。このようにこれまで様々な努力を重ねてきた結果、財務状況は改善してきた。また、懸案である宝塚キャンパスの利活用策に目途をつけることができれば、経常収支の黒字化に向け減価償却費を含め、効果が見込まれる。

今後、2021年の東京メディア芸術学部の定員充足を最重要課題として取り組むほか、私立大学等経常費補助金の増額や科学研究費補助金の獲得などの収入増対策とともに、教育研究活動や管理活動に伴う経常経費の抑制を実現することによって、経常収支黒字化に向けてさらなる財務改善を図り、2021年度には経常収支の黒字化を達成することをめざす。

### (2) 具体的な財務改善策

#### ①外部資金の獲得

2019年度の外部資金の獲得及び交付額は以下の実績となった。今後とも、科学研究費補助金の獲得に注力するとともに、「私立大学等改革総合支援事業」については、採択される基準に至っていないため、本学の教育の特色も踏まえた、更なる改善に向けた取り組みが必要である。

- 「私立大学等経常費補助金の交付額」 121,976 千円（内訳：一般補助 111,856 千円、特別補助 10,120 千円）
- 「科学研究費補助金の交付額」 4 件 18,720 千円（内訳 1：日本学術振興会 直接経費 3,400 千円、間接経費 1,020 千円）（内訳 2：厚生労働省 直接経費 11,000 千円、間接経費 3,300 千円）

#### ② 人事政策・人件費の抑制

教員人事については、教育の質の担保に十分留意しつつ、適切な教員配置に留意して各学部に中長期的な採用計画の立案を要請した。なお、教育・研究活動の客観的な実績に基づいて採用・昇任を行うプロセスの明確化に努めた。職員人事については、将来構想の実現のための配置、法人本部及び各事務部の連携を強化できるよう人事異動を行った。法人本部に「人事政策 PT」を設置し、中長期的に人事政策を抜本的に見直してゆく。

#### ③ 宝塚キャンパスの活用方法の検討について

2019年3月末に学部閉鎖した宝塚キャンパスの経費削減、有効活用を推進すべく「将来構想企画室」を設置し、大学全体の新たな時代の教学と経営のあるべき姿を見据え、様々な構想を企画検討している。

#### ④経費抑制（人件費を除く）

予算編成にあたっては、各学部・各事務部が設定する戦略的項目・重点項目（収入増加額が支出増加額を上回る十分な見込みのある項目）については、管理運営協議会の下部委員会にて十分な検証を行い、適正な予算編成と執行を進め、更なる経費抑制に努めた。



## ⑤借入金と現金預金

2016年度末で借入金は全て完済している。また、資金繰りについては、本年度も円滑に推移した為、当座貸越等の短期借入金を活用することはなかった。本年度末における現金預金残高は1,579,985千円となり、良好な流動比率の維持に努めた。

### (3) 2019年度決算の状況

#### ①貸借対照表の状況

- 2019（令和元）年度末の総資産は18,681,112千円（前年度比で280,167千円の減少）、総負債は625,975千円（前年度比で9,926千円の減少）となり、その結果、純資産は18,055,136千円（前年度比で270,241千円の減少）となった。
- 有形固定資産については、施設・設備の更新等で62,201千円増加したが、減価償却額および固定処分差額の合計で311,132千円計上したことにより、全体として248,930千円の減少となった。
- 基本金については、第1号基本金の49,423千円の繰入を行ったことにより、本年度末の基本金残高は26,596,484千円、未組入高は20,572千円となった。

#### ②収支計算書の状況

##### （事業活動収支）

- 本年度の事業活動収入は1,512,307千円となり、前年度比で72,259千円の減少となった。主な内容は、雑収入が前年度比で74,500千円減少したことによるもの（減少の要因は、造形芸術学部学部廃止に伴う専任教員に係る私大退職金財団交付金収入）である。
- 本年度の事業活動支出は1,782,548千円となり、前年度比で300,720千円の減少となった。増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、減少した内容は人件費252,680千円、教育研究経費212,929千円が前年度比でそれぞれ減少したことによるもの（減少の要因は、造形芸術学部学部廃止に係るもの）である。
- なお、管理経費は造形芸術学部の学部廃止により宝塚キャンパス維持経費の大半が教育研究経費から付け替わったことにより前年度比で162,744千円増加している。
- 以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は270,241千円の支出超過（前年度は498,702千円の支出超過）、当年度収支差額は319,664千円の支出超過（前年度は567,023千円の支出超過）となり、前年度比で支出超過のマイナス額が大幅に改善されることとなった。

##### （資金収支）

- 本年度の資金収入（繰越支払資金除く）は1,612,004千円となり、前年度比で44,531千円の収入増となった（前年度は1,567,473千円）。
- 増加項目と減少項目によって収入全体は構成されるが、増加した主な内容は、学生生徒等納付金収入25,630千円、補助金収入5,064千円、その他の収入66,727千円が前年度比でそれぞれ増加したことによるものである。また、本年度決算においては、資金収入調整勘定（前年度決算との調整項目）が前年度比で50,815千円少なくなっている。
- 本年度の資金支出（繰越支払資金除く）は1,595,064千円となり、前年度比で261,781千円の支出減となった（前年度は1,856,845千円）。
- 増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、減少した主な内容は、人件費支出249,593千円、教育研究経費支出105,087千円、施設関係支出および設備関係支出の合計43,098千円が前年度比でそれぞれ減少したことによるものである。また、本年度決算においては、資金支出調整勘定（前年度決算との調整項目）が前年度比で47,896千円少なくなっている。
- 以上の結果、当年度の資金収支差額は16,939千円の収入超過（前年度は289,372千円の支出超過）となり、翌年度繰越支払資金は1,579,985千円、前年度比で16,939千円の増加となった。



(活動区分資金収支)

- 本業である教育活動による資金収支差額は、プラス 95,993 千円となり、前年比で 343,709 千円のプラスの改善となった(前年度はマイナス 247,715 千円)。改善の要因は、造形芸術学部学部廃止に係るものである。

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 教務委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 教務委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:近藤・北見・井上・竹内・渡邊・杉山・仁藤・橋口・篠田・梁・川上・中里・松浦
	職員	高山(副委員長)・登坂・村田・大和・岩脇(退職)・小川・成田
〔1. 主な審議項目〕		
① ゼミ制度の細部設計の調整		
② 教務に関わるガイドライン等について、見直し・領域制度の変更に伴う作成		
③ 大幅な教育課程改編計画の延期		
④ 2020年度シラバス作成の検証		
⑤ 2020年度教育課程における科目レベルの検証		
⑥ 卒業制作展展示の成績評価方法の検証		
〔2. 審議結果及び実施状況〕		
① 2018年以降の入学者に適用されるゼミ制度の細部設計を検証し、必要に応じて修正・追加。		
② 学外フィールドワーク・領域ゼミ単位認定のガイドラインの時間数等の見直し、領域制度が適用されない学年に向けた新たなガイドライン作成。「学外講師招へいに関する申し合わせ」改正。		
③ 数年を想定した大幅な教育課程改編計画を延期し、2020年度に向けての微調整に止める。		
④ 各委員で分担し、全科目のシラバスの記載内容を検証。		
⑤ 2020年度教育課程における一部科目の科目レベルと名称を検証し適切なものに変更。		
〔3. 総括及び改善点〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>領域制の変更後の過渡期にあたり、学年毎に異なる制度の調整や、2018年度入学者から導入したゼミ制度の更なる細部設計など、教育課程の詳細な見直しを行い、適切な変更を行った。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度入学者からの適用を目指して大幅な教育課程改編を計画していたが、学部内の総意がまとまらず一旦中止(延期)となった。本年度は、主には2020年度に向けた微調整ではあるが、将来的な視野に基づき諸制度の検証を進めた。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の多様化、制度の見直しや変更等によって本委員会が負う責任が増しているため、より注意して各業務に取り組むべきである。また同時に、社会における本学の責任、意義をより明確にして、数年先まで視野に入れた教育課程を考えていく必要がある。</li> </ul>		
〔4. 次年度に向けての取組み〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>延期された教育課程改編計画を再検討する。特に本学の軸となる専門分野の整備に取り組む。</li> <li>ゼミ制度、初年次教育、就職支援委員会から要望されたキャリア教育の整備を引き続き進める。</li> <li>学生の多様化、学生数の増加に伴う変化を把握し、教育の質と環境の改善に取り組む。</li> <li>2019年度末に発生した新型コロナウイルス問題への対処。</li> </ul>		

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 学生委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 学生委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:橋口 井上、北見、杉山、竹内、渡邊、仁藤、篠田、梁、石川、川上、仲里、松浦
	職員	大和(副委員長)、登坂、高山、村田、岩脇、成田、小川

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① ゼミ制度に関する事項</p> <p>② 宝塚大学奨学金制度採用候補者の決定</p> <p>③ 東京メディア芸術学部障がいのある学生への修学支援の基本方針の整備</p> <p>④ ラーニングスタッフ運用に関する事項</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① ゼミ制度の運営に必要な事項の審議(運営手引の作成・修正、ゼミ面談等の詳細決定)。</p> <p>② 2019年度宝塚大学奨学金の採用候補者を決定し。宝塚大学奨学金委員会へ推薦した。</p> <p>③ ラーニングスタッフ関連規程・ガイドラインを整備した。</p> <p>④ 東京メディア芸術学部障がいのある学生への修学支援の基本方針を決定した。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度に引き続いてゼミ制度の運営に苦心した年であった。制度が完全に適用される2021年度に向けてさらなる改善に務める必要がある。</li> <li>入学者が増加したことに伴い、心身の不調を訴える学生や、学修に躓く学生も増えてきた。これらの学生を卒業まで導くには教職員全員の強力が不可欠であり、学生情報を円滑に共有する仕組みとして学修ポートフォリオの導入が急務と言える。</li> </ul>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の活動を学内に周知するために、表彰制度の導入を引き続き検討していく。</li> <li>学修ポートフォリオの導入に向けた調査・検討を進める。</li> <li>学生のメンタルケア体制を充実させるための方策を検討する。</li> </ul>

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 入試委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 入試委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	吉岡(委員長)・市野・櫻木・高田・篠田・古瀬・李・中里・石川
	職員	金澤/谷口(副委員長)・佐藤・宇部・成澤・森岡・鈴木

〔1. 主な審議項目〕	
2021年度入試は学力の3要素を担保し、学部のアドミッションポリシーに沿った内容を検討する。	
① 2021年度入試における一般選抜の科目数について	
② 2021年度一般入試「国語(記述式問題)」の見直し	
③ 2021年度の入試日程について	
④ 2021年度入試における調査書の評価内容の見直し	
⑤ 2020年度実施オープンキャンパス日程、担当者について	
〔2. 審議結果及び実施状況〕	
① 前年度と同数の受験者数を見込みたいため、従来通り1科目として実施。	
② 文科省の入試制度運用問題から中止を踏まえ、本学部も「国語(記述問題)」の導入実施は延期。	
③ AO入試は従来どおり4回実施。留学生入試は試験運用面を考慮して3回から4回の実施。	
④ 評価項目で判断が付かないケースがあるため、部活動項目の見直しをした。	
⑤ 大学院の受験説明会を12月オープンキャンパスで実施する案について、継続協議とする。	
〔3. 総括及び改善点〕	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験者数増に伴い、入試方法や実施方法の検討は今後も継続的に審議する。</li> <li>・ DPに沿った学力判定方法を2025年度をターゲットに継続して検討を行う。</li> <li>・ 昨年度に引き続き、募集定員130名は達成できた。</li> <li>・ 引き続き、受験者数増を目指すとともに、受験者の質を上げる施策が必要である。</li> <li>・ 入試区分、入試科目、入試日程の簡素化を図り、事務業務の複雑化に伴うミス予防を検討する。</li> </ul>	
〔4. 次年度に向けての取組み〕	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験生数の増加に伴う留学生入試において、作文、デッサン、面談としている仕組みの検討。</li> <li>・ N1必須化の代替案としてN1資格者を加点することについて。留学生入試の提出書類の簡素化。</li> <li>・ 編入試験における担当分野教員の評価の影響度(1.5倍)を考慮する仕組みの検討。</li> <li>・ デッサン試験の持ち込み道具の整理。</li> <li>・ 入試方法(チャレンジ入試必須性等)、半年間で8回実施している入試回数の見直し検討。</li> <li>・ Web出願導入の検討、複数受験時の受験料減免制度の検討。</li> </ul>	

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 広報委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 広報委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	仁藤(委員長) 芦谷(副委員長)、渡邊、吉岡、増田、松浦
	職員	南部、宮幸、森岡、梁明、宇部、鈴木雄

## 〔1. 主な審議項目〕

- ① HPリニューアルについて
- ② 学部案内について
- ③ YoutubeによるCMの作成について
- ④ 卒展小委員会について
- ⑤ コンビニBGM広告について
- ⑥ オープンキャンパスについて

## 〔2. 審議結果及び実施状況〕

- ① コンペによって、業者が決定された。高校生にとって見やすいHPを作成する。
- ② 表紙デザインのリニューアル。昨年度の構成をベースに、学生生活がわかるページ及び芦谷先生の特集ページ等を増やした。
- ③ 新CM 3本「ナンキダイ篇A」「ナンキダイ篇B」「学生」篇を公開した。
- ④ 卒展小委員会の設立。高校、OC来場履歴のある生徒に向けてA4ポスター、DMを発送を行い、来場者を増やす事に成功した。
- ⑤ 声優の櫻井孝宏さんを起用。OC中止により、コンビニBGM広告も中止した。
- ⑥ チラシデザインの刷新と入試委員会との連携を密にする。

## 〔3. 総括及び改善点〕

- ・ 効果の出なかった、静岡のTVCM,コンビニBGM広告は廃止予定。
- ・ YoutubeによるCMの効果測定を行い、来年度以降のリニューアルの参考にする。
- ・ 学部案内の内容を振り返り、次回の構成を考える。
- ・ 大学の広報企画室との連携を改善する。
- ・ 卒展を振り返り、卒展小委員会あり方を再考する。

## 〔4. 次年度に向けての取組み〕

- ・ 現在バラバラである、学部案内、HP、YoutubeCM、OCチラシ等のデザインを統一する。
- ・ 連携の取れていない、広報企画室との連携を円滑にする。
- ・ 交通系の広告について、掲載場所等の検討を行う。
- ・ YoutubeによるCMの計画を協議する。

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 就職支援委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 就職支援委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	中村(委員長)・井上・市野・高田・李・神林・仁藤・川上・和田
	職員	谷口(副委員長)・名雪・佐藤・小川・梁・齊藤

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 2018年度就職支援を通しての課題(正課授業・カウンセリング等)を共有し継続審議とする。</p> <p>② 留学生就職支援の整備と意識改革面の強化 (2年次面談の実施・N1対策講座の開設等)。</p> <p>③ ポートフォリオ・アーカイブファイル管理の徹底周知(対教員・对学生)。</p> <p>④ 職業と関連する授業科目の理解・促進について。/学生の基本マナーアンケート調査について。</p> <p>⑤ 2020卒(4年生)の就職活動の進捗(学生個別)を報告・共有し、適宜、必要なサポートを行う。</p>	
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 3D授業作品のない学生を対象に、3D特別講座を開講し、ポートフォリオ用の作品を制作した。</p> <p>② NI資格取得のための特別講座を開講(2回)し、出席率向上のために事前説明会を実施した。</p> <p>③ コンピュータデザイン基礎の授業内で、インデックスを作成する時間を設けるよう協力を依頼した。</p> <p>④ 職業と関連する授業科目の作成は難しいため、引き続き検討する。</p> <p>⑤ 学生の基本マナーアンケート結果は、初年次教育や就活マナー講座に反映していく。</p>	
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <p>① 2回の授業だが、自習制作にも力点を置き、2本から3本の作品を作った。継続的な開講を検討する。</p> <p>② NI資格必須という意識は浸透し、取得者は2年生で19名(34%)となり、1年間で2倍増になった。</p> <p>③ 留学生の就活意識がより現実的になってきた。卒業後の特定活動への審査基準を見直しを行う。</p> <p>④ 留学生の就活に際しては、保護者の意向も確認しながらサポートの有無を決める。</p> <p>⑤ PFの管理は分野や教員間で差が生じており、促進する教員への周知もしていかなければならない。</p> <p>⑥ 2D授業、3D授業の体系化の検討と学生への指導を巡ることについて関係部署と協議する。</p>	
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <p>① 授業科目の理解・促進を初年次教育、キャリア授業科目、ガイダンスを通じて取り組む。</p> <p>② 留学生支援の内容について整備し、就活サポート体制を整え、2021年度の支援に支援につなげる。</p> <p>③ 留学生支援は、日本語能力(読む・書く・伝える)、ビジネスマナー、PF制作、就業意欲等。</p> <p>④ 業界・職種の理解促進とポートフォリオ制作の質向上に向けた取り組みを行う。</p> <p>⑤ 就職率目標値は、日本人学生90%以上、留学生は30%~35%程度に設定する。</p>	

学部/委員会名		東京メディア芸術学部 IR推進委員会
設置根拠		東京メディア芸術学部 IR推進委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:篠田 渡邊 橋口
	職員	高山(副委員長) 大和

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 学修行動調査の企画立案と実施</p> <p>② FD・SD活動の企画立案と実施</p> <p>③ 実施内容を大幅に改善した学生による授業評価アンケートの実施</p> <p>④ アセスメントポリシーの一部改定と外部アセスメントテスト見直し検討</p> <p>⑤ カリキュラム改編検討に向けた教学企画室・教務委員会との連携</p> <p>⑥ 全学IR推進会議からの要請に基づき、IR規程案及び個人情報保護規程改定案に対する意見の取りまとめ</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 2018年度に引き続き、学年毎に質問項目を変えた学修行動調査を実施。</p> <p>② FD活動が所管業務となっており、4種・計5回の研修会と1回の授業見学会及び研究会を実施。</p> <p>③ 実施内容を大幅に見直した授業評価アンケートの着実な実施。</p> <p>④ 2018年度に策定した本学部のアセスメントポリシーを一部改訂と、外部アセスメントテスト見直しを検討。</p> <p>⑤ 教学企画室が9月にむ解散となったことを受け、カリキュラム改編検討に向けた連携を中断。</p> <p>⑥ 全学IR推進会議からの要請に基づき、IR規程案及び個人情報保護規程改定案に対する意見の取りまとめ。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学部全体としてみた場合、エビデンスに基づく教育改革の必要性に対する認識が乏しい。</li> <li>大幅に実施内容を改善した授業評価アンケート及び2年目を迎えた学修行動調査については、概ね順調に実施できた。今後のデータ分析に向けて一歩前進したといえる。今後は、蓄積されたデータをいかに学生個人への教育・指導に生かしていくか、eポートフォリオの導入等の検討が急務である。</li> <li>IR規程案及び個人情報保護規程改定案については、年度末に向け2度の意見書を取りまとめ、提出した。</li> </ul>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IRデータは学生の教育活動に還元されてこそ意味がある。今後、着実にデータ収集を進め、特に2017年度以前入学者と2018年度以降入学者の比較を中心とした経年変化を分析することで、各委員会や部局に情報を提供、教育内容の改善に資するものとした。</li> <li>本学部の学生教育・指導により適切な外部アセスメントテストの導入を引き続き検討したい。</li> <li>新規に制定される予定のIR規程が教育現場を混乱させないように適切な制度設計及び運用となるよう注意を払っていく必要がある。</li> </ul>

# 委員会の活動状況(2019年度)

看護学部 - 1

学部/委員会名		看護学部 教務委員会
設置根拠		教務委員会規程、看護学部教務委員会規程、科目履修生規程 等
構成員 (事務担当含む)	教員	尾ノ井美由紀、牧野裕子、上山直美、大谷薫、平野加代子、西田千夏、梅川奈々、山内聡子(9月まで)、石田(1月以降) 敬称略・順不同
	職員	谷口陽亮、松本千歳
〔1. 主な審議項目〕		
(1) 学生異動		
(2) 単位認定に関すること 卒業判定		
(3) 前期・後期教務委員会ガイダンスに関すること		
(4) 前期・後期定期試験および追・再試験に関すること		
(5) 「看護の探求」学生配置		
(6) 成績評価に関すること		
(7) 非常勤講師に関することおよび非常勤講師会開催		
(8) GPA学修指導に関すること		
(9) シラバス作成に関すること		
(10) 学年歴および時間割に関すること		
(11) 履修規程に関すること		
〔2. 審議結果及び実施状況〕		
(1) 2019年度13回の教務委員会を開催したが、学部運営会議開催日時により開催日の調整を行ったが、後期委員の実習指導などにより欠席者が多く、開催日時の検討が必要である。		
(2) 2020年3月現在、在学学生：1年103名、2年105名、3年92名、4年96名であった。復学者2019年4月4名、2019年10月1名。退学者2019年9月末日4名、2020年3月末日4名。休学者2019年度前期3名。後期9名であった。		
(3) 2019年度看護学部卒業生78名(2014年度入学生2名、2015年度入学生3名、2016年度入学生73名)が判定お結果承認された。2019年度助産学専攻入学生7名の修了が承認された。		
(4) 学年歴、時間割に関する事項は滞りなく遂行されたが、入学式の日程が2019年12月会場変更に伴い変更された。		
(5) 学内教員には11月、非常勤講師には12月23日以降にシラバス作成依頼を行い回収し、教務委員会で確認後2020年2月4日に入稿した。校正期間を勘案すると12月中の入稿が望ましい。		
(6) 2018年度以降授業評価アンケートに基づき科目責任者が改善点を明示したが、効果検証が行われていないことから今後学修支援室の協力の下効果検証を行っていく必要がある。		
(7) 2019年度前期成績結果よりGPA学修指導がチューターにより行われたが、低学力の学生ほどが面談実施困難であったことから学修支援室との役割分担を含め学習指導強化していく必要がある。		
(8) 学生からの希望により「看護の探求の」配置を科目責任者である学科長と調整して年度内に行うこととなった。		
(9) 今年度は非常勤講師会を2019年12月実施したが25名の参加を得好評に終了した。しかし、開催時のシラバス作成依頼によりシラバス入稿時期が遅くなり開催時期の検討が必要である。		
(10) ガイダンスの無断欠席者や遅刻が多く(1年：5名(2)、2年11名(3)、3年：14名(6)、4年：16名(7))、ガイダンス欠席者対応が必要であることから、欠席者対応要領を作成した。( )は遅刻者		
〔3. 総括及び改善点〕		
・ 単位認定、成績評価、学生異動に関する業務は滞りなく遂行された。		
・ ガイダンス欠席者への具体的対応要領が作成された		
・ 2018年度に引き続き非常勤講師会を開催し非常勤講師の協力を得ることができた。		
・ GPA学修指導をチューター教員の協力により実施した。		
〔4. 次年度に向けての取組み〕		
・ シラバス作成時期との兼ね合いから非常勤講師会開催時期を決定する必要がある。		
・ 授業評価アンケートに基づく改善点の効果検証およびGPA学修指導方法を学習支援室と連携の下に実施する。		
・ ガイダンス欠席者対応の実施・評価を行う。		



学部/委員会名		看護学部 学生委員会
設置根拠		看護学部 学生委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:八田 浮田(副委員長)、伊佐、岩城、中尾、林、前田、森脇、久乗
	職員	楠本

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 学生の福利厚生に関する事項</p> <p>② 学生の課外活動に関する事項</p> <p>③ 学生相談に関する事項</p> <p>④ 学生の健康管理に関する事項</p> <p>⑤ 奨学金に関する事項</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① ガイダンス(学生生活)、学祭、卒業パーティ、新入生歓迎会等の開催支援</p> <p>② 宝翔祭の実施</p> <p>③ サークル活動の活動状況の把握と新入生歓迎会での紹介</p> <p>④ チューター面談、オフィスアワー一覧表作成、カウンセリング、保健室利用状況の把握</p> <p>⑤ 感染症対策の注意喚起ポスター作成</p> <p>⑥ 奨学金の学生選定</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <p>① チューター制度の改善で学生生活の充実を図り、学生生活の悩みや問題点の解決に取り組んだ</p> <p>② 学生自治会設立に向けて協議を重ね、学生と共に活動内容や役割分担について考えた</p> <p>③ 教室の環境を改善するために、空調や観葉植物の配置などを要望した</p> <p>④ プロジェクター、スクリーン等教育環境の改善を提案した</p>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <p>① チューター制度を充実させる</p> <p>② 学生の縦の交流を図る</p> <p>③ 自治会設立に向けての活動を支援する</p> <p>④ サークル活動やレクリエーションができる環境を整える</p> <p>⑤ 学生動向調査を分析して課題を明らかにする</p>

学部/委員会名		看護学部 FD委員会
設置根拠		FD委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	浮田恭子、合田友美、平野加代子、廣田香
	職員	今村未帆

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① ルーブリック評価等を活用した教育改革の推進</p> <p>② 授業研究の意義の確認、および教員相互の授業力向上を目指すシステム化</p> <p>③ 大学を取り巻く情勢を踏まえ、教育・研究力量の向上につながる情報収集、発信、参加支援</p> <p>④ FD・SD合同セミナーの計画的開催とフィードバック</p> <p>⑤ 看護学部教育の客観的到達状況の検証と共有</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① ルーブリック評価に関するFDセミナーの開催:11月13日(水) 講師:浦田悠先生(阪大) 前回(2019年3月)の学びを踏まえ、看護学部で使っているルーブリックを集团的に検証した。</p> <p>② 授業研究に関するFDセミナーの開催:9月11日(水) 講師:合田友美先生(本学部) 公開授業の実施(2019年後期:基礎教育、基礎看護、母性、小児の4領域で実施)</p> <p>③ 各委員から、メール等で学会やセミナー等の取り組みを構成員に紹介した。</p> <p>④ IRの取り組みや法人によるSDの取り組みなど、他部門との調整を要する課題</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は年間計画に基づきFDセミナーを2回開催した。大変好評な取り組みとなった。</li> <li>昨年度に継続し公開授業を実施した。4領域で行い、振り返りを実施して報告書が提出された。</li> <li>公開授業については実施できていない領域もあり、次年度に継続して発展させていくべき。</li> <li>ルーブリック評価については看護学部の多くの実践例を集約し教育力の向上を展望していく。</li> <li>実習という看護学部の特性を踏まえ、より多くの教員が参加できるよう工夫していく必要がある。</li> </ul>
<p>[4. 次年度に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究:今年度の取り組みを継続し、次年度は全領域および多くの教員に広げる。</li> <li>ルーブリック評価について、新カリキュラムやシラバスとの関りで実践を広げ熟達していく。</li> <li>中長期的な展望を持って教育力・研究力を高めるためのFD政策の構築が求められる。</li> <li>科研費をはじめとする競争的資金の獲得力を高めるための研修等もFD委員会として検討する。</li> <li>人材育成の視点から、新人研修や職階に応じた研修など、よりシステマティックな検討が必要。</li> </ul>

学部/委員会名	看護学部 キャリア支援委員会
設置根拠	看護学部 キャリア支援委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員 委員長:峯岸 副委員長:巽 美王、堀、廣田、阪田

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 2019年6月 3年次生対象「就職活動準備講座」(株)マイナビによる講座について</p> <p>② 2019年7月 卒後1年目生対象「シャトル研修A」について</p> <p>③ 2019年9月 3年次生対象「実習前グループワーク講座」「学内就職説明会」について</p> <p>④ 2019年12月 卒後1・2年目生対象「シャトル研修B」について</p> <p>⑤ 2019年12月 3年次生対象「履歴書・面接対策講座」(株)マイナビによる講座について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 「就職活動準備講座」では、81名が参加し、医療機関が就職希望学生に求めるもを知るために、とくにインターンシップ等に必ず参加するようにすすめられた。</p> <p>② 「シャトル研修A」には1年目生28名が出席した。ストレスへの対処について講義とGWを行った。</p> <p>③ 同じ日の午前に「実習前グループワーク講座」、午後に「学内就職説明会」を実施した。参加人数は約70名であった。またその終了後に「卒業生との交流会」を行った。</p> <p>④ テーマ「日々の看護業務から本来の看護を見出そう」をテーマに講義と、個人ワーク・グループワークを行った。参加者は、1・2年目生合わせて22名であった。</p> <p>⑤ 「履歴書・面接対策講座」には約70名が参加し、講義だけでなく採用試験の場面を想定して個人ワーク・ロールプレイを行った。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <p>就活準備講座を早期(6月)に開始し、「履歴書・面接講座」ではロールプレイを行ったり、また「学内就職説明会」「履歴書・面接講座」「卒業生との交流会」を同一の日に開催したことは、学生の就活に対する意識を高め行動を起こさせるのに役立ったと考えられ、今後も継続していくのが望ましい。</p> <p>シャトル研修A,Bでは、その時期の卒業生が直面する困難の表出とその緩和に役立ったと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>とくにシャトルBでは、看護職として直面する現場の困難について語り合い、看護の本質とやりがいについての認識を深めることができたと考えられる。</li> </ul>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種講座の早期開始と、講義だけでなくロールプレイ等の活用は、今後も継続していくのが望ましい。</li> <li>シャトル研修Bでは、アサーション等の技法だけでなく、卒業生がその時点で直面している困難に答えるテーマや手法を実施し、「看護専門職者」としての自覚を促し、やりがい感を得てもらうことが望ましい</li> <li>「社会人基礎力」の育成には、連続性・継続性・一貫性が必要であり、3年次以降の実習においても、同様な方法で実施し、採用側が期待する人材を育成していく必要がある。細項目のチェックや点数化でなく、学生が自分の言動を客観視し自分のことばで記述し、自ら行動変容していくこと、教員が助言をすることが肝要である。</li> <li>大学側が学生に勧める就活の方針は「専願」と「実習病院」である。これを学生の主体性を損なうことがないよう進めるために、十分な説明と情報提供を行う体制を構築していく。</li> </ul>

学部/委員会名		看護学部 実習委員会
設置根拠		看護学部 実習委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:中川 牧野 西田 美王 梅川 瀬山 前田
	職員	谷口・松本
〔1. 主な審議項目〕		
① 分野別臨地実習短縮化とインシデント対策について		
② 総合実習の要項の見直しと運営について		
③ 抗体価検査・予防接種指導の徹底について		
④ SNS研修について		
⑤ 実習施設連絡協議会の開催について		
⑥ COVID-19による実習延期とマスクと擦拭性手指消毒剤の管理について		
〔2. 審議結果及び実施状況〕		
① 2019年度から2020年3月までに臨地実習を短縮した。これに伴い、非常勤実習指導者を(成人看護学、老年看護学)13名程度導入し、非常勤実習指導者要項を改定した。インシデント・アクシデント総数は39件であり、会議毎に情報共有し、対策を検討した。		
② 総合実習は、本年度より①複数の対象者への看護援助、②看護組織における管理、③自己の看護観を実習目標とし、学生80名を対象に臨地実習を遂行した。事前学習評価指標には、ルーブリックを用いて総合的に評価した。		
③ 抗体価検査・予防接種指導について、委員が期日を守らない学生や直前まで接種しない学生に100時間を費やし、指導を徹底した。実習中にインフルエンザの罹患はなかった。		
④ SNSに関するインシデントが1件発生し、研修を2回実施した。学生79名(82.3%)が出席し、欠席者には課題を出し、全員が提出した。その後、SNSに関するインシデントはなかった。		
⑤ 実習施設連絡協議会のテーマを「コミュニケーションが困難な学生への対応について」とし、13施設30名の参加があった。アンケートは「とてもよかった」「よかった」が9割を占めた。		
⑥ COVID-19パンデミックによるマスクと擦拭性手指消毒剤の流通が停滞し、在庫と払い出しの管理を行い、臨地実習時に不足することがないようにした。感染者はなかった。老年看護学と精神看護学(計35名)は実習延期となったため、次年度に臨地実習を検討する。		
〔3. 総括及び改善点〕		
<p>COVID-19による臨地実習の対応について、分野ごとに対応した。ホームページに本学の臨地実習に対する方針が掲載された。臨地実習以外にも対応が必要な案件であり、大学に危機管理室を設置することが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSによるインシデントは、臨地実習以外にも生じていることから、実習委員会以外による継続した研修が必要である。</li> <li>抗体価検査・予防接種指導について、期日を守れないことや接種せずに基礎看護学実習に出ている学生が多く、追跡する委員の負担が大きい。これに対応する部所が必要である。</li> </ul>		
〔4. 次年度に向けての取組み〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、分野別臨地実習前に、課題レポートと実習前技術チェック(バイタルサイン測定・シーツ交換)を行い、不足している技術を確認する機会となったことから次年度も実施する。</li> <li>総合実習の評価表をルーブリックを用いて総合的に評価する。</li> <li>COVID-19パンデミックによる臨地実習延長に対する学内実習および対応について検討する。</li> </ul>		

学部/委員会名		看護学部 国家試験対策委員会
設置根拠		看護学部 国家試験対策委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:合田, 浮田, 美王, 伊佐, 岩城, 久乗, 堀, 瀬山, 森脇, 杉本
	職員	太田, 中西
〔1. 主な審議項目〕		
① 国家試験受験生対象の模擬試験や対策講座、セミナーなどの教育企画と運営について		
〔2. 審議結果及び実施状況〕		
<p>新卒生および既卒生を対象とした模擬試験および予備校講師による4種の対策講座を企画し運営した。計8回の模擬試験では、模試ごとに目標値を設定して学生と共有し、目標と達成度評価を循環させることができるような仕掛け(フィードバック)をおこなった。また、計48回の対策講座は外部業者の特徴を活かした構成とし、成績が振るわない学生を層化して受講対象を分け、成績によるメンバー入れ替え制をとった。そして、学生のより主体的な取り組みを引き出すために、年間スケジュールの配布、連絡ツール(LINE)およびポートフォリオを導入した結果、欠席/遅刻者数が例年と比べ減少した。欠席がちな学生や成績が振るわない学生は、委員会で個別に検討するとともに、委員長、学科長、学部長による面談(必要時保護者面談)を実施し、受験および受講意思を確認しながら支援をおこなった。</p>		
<p>低学年の学生に対する国家試験受験への動機づけを重要課題とし、その方略を検討した。そして、従来の専任教員によるガイダンスに加え、外部業者によるガイダンス(各学年1回以上)と対策講座(臨地実習開始前に実施)を新規導入した。また、到達度と課題を確認できるよう模擬試験回数を増やし、各学年2回ずつ実施した。さらに、自学自習できるようWEB復習機能のある模擬試験を採用し、復習状況の確認や促進をおこなった。</p>		
<p>在学生による国家試験係を各学年に設け、適宜、教員を交えたランチョンミーティングを開催して、学年を超えた学生の交流を促進するとともに、学生のニーズを確認しながら、国家試験対策となる学習方法(アプリの紹介など)の情報提供をおこなった。</p>		
<p>既卒生には、定期的に対策講座や模擬試験情報等をメールを送信するとともに、適宜、電話をしたり、来校時に面談をしたりして現状を把握しながら、精神的なサポートと叱咤激励を続けた。</p>		
〔3. 総括及び改善点〕		
<p>連絡ツール(LINE)の導入やチューターとの情報共有や連携により、昨年度に比して対策講座、ガイダンスの出席率は上昇した。国家試験の得点率をみると、対策講座やガイダンス、模擬試験の出席率が低い学生は得点率も低い傾向にあるため、適宜、チューター面談、委員長、学科長、学部長面談を取り入れ、学生の個別性に合わせた指導をおこなった。この結果、動向のつかめない学生や無断欠席の学生は激減した。</p>		
<p>模擬試験結果に基づいて学生を層化し、対策講座の座席やメンバーを変更することで、学生のモチベーションを上げるとともに、明確な目標設定を可能にした。さらに、学生のレベルに合わせた指導が可能となり、講座に対する満足度も高まった。また、信頼できる予備校講師を確保でき、委員と密に連携することで、学生の学習状況や課題の明確化が図れ、指導方針が定まり効果的であった。そして、模試ごとに個別/学年全体の目標値を設定し学生へ示すことや、自習場所の確保と告知をおこなうことで、目的や目標をもった学習行動の基盤を形成できた。</p>		
<p>低学年対象ガイダンスは、解剖生理と看護の関連や国家試験問題の出題傾向を教授することによって、日々の学習が国家試験に繋がっていることを再認識させる好機となった。一方、WEB復習機能付きの模擬試験を導入したが、WEBへのアクセス数は伸び悩み、教員からの繰り返しへの促しにもかかわらず期待するほど活用されなかった。低学年より、学習の仕方を教授し主体的な学習を促しつつも、一定の強制力をもった支援が必要であると考えた。</p>		
<p>小グループでの学習はできて、クラス全体で団結することに対しては消極的であった。今後は、クラス全体の雰囲気づくりや意識改革が急務である。さらに、低学力層は学習の習慣が身につけていないだけでなく、学習方法の誤りが目立つため、丁寧な個別の支援が必須である。また、経済的問題や家庭問題など国家試験対策に集中できない事情を抱えている学生も多く、チューターや学生支援室、事務局等と連携を図り個別的支援が求められた。そこで、日々の学習の中で折に触れて国家試験に対応した学習方法を教授するとともに、全教職員で一丸となって国家試験対策に取り組むことが不可欠である。</p>		
〔4. 次年度に向けての取り組み〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬試験結果やGPA等を考慮したレベル別支援策の構築</li> <li>・ 既卒生を対象とした国家試験対策の深化</li> <li>・ 主体的学習を促進するための低学年からの教育方法の再検討(進化)</li> <li>・ 意識や意欲の高い学生の登用による戦略的なクラス運営(学生係の組織化、活性化)</li> </ul>		

学部/委員会名		看護学部 研究倫理委員会
設置根拠		看護学部 研究倫理委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長:中川 山本 上山 伊佐 外部委員:中塘 永井
	職員	田中
<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 研究倫理申請書の審査について</p> <p>② 宝塚大学看護学部研究倫理委員会規程の改定について</p> <p>③ 「宝塚大学看護学部研究倫理委員会運営要領」の改定について</p>		
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 申請件数10件 (内訳:承認件数7件(うち迅速5件)、条件付承認1件、継続審議件数1件、非該当2件) 2018年度継続審議件数1件(不承認)</p> <p>② 「宝塚大学看護学部研究倫理委員会規程」を「宝塚大学看護学部・助産専攻科研究倫理委員会規程」に改定した。内容については、申請のプロセス、異議申し立て、利益相反等を改定した。</p> <p>③ 「宝塚大学看護学部研究倫理委員会運営要領」に最新の倫理指針を追加し申請書、通知書の改定した。</p>		
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <p>2018年度継続審議(1件)については、研究開始前の同意がなく取得したデータを用いて論文作成された。「不承認」に対して申請者より異議申し立てがあり、2018年度の委員と2019年度の委員が合同で審議した。事前同意取得を重視する立場から「不承認」とした。申請者より異議申し立てのプロセスが踏まれなかったことから、「宝塚大学看護学部研究倫理委員会規程」を改定し、プロセス通りに手続きがなされるように規程を整理した。</p> <p>科研の研究代表者の施設で倫理審査が行われたかどうか不明のまま、本学で科研のテーマで研究分担者が申請するケースが1件あった。改定した規程に基づき、「研究代表者の所属する施設で研究倫理を受け承諾を得る」とし、「非該当」とした。</p> <p>「条件付き承認」1件については、人権の観点から問題があり、修正を要した。教員の研究倫理に対する意識を啓発するために研修が必要である。</p> <p>「宝塚大学看護学部研究倫理委員会運営要領」の内容を精査し、さらに申請書、通知書の改定を行った。</p> <p>申請者が実習指導のため出席できず、分担者が審査を受けた事案が1件あった。分担者から申請者への審査結果の伝達のエラーがあり、これを避けるため、今後は、申請者が審査を受けるよう改善する。</p>		
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICR-WEBの受講は継続し、それ以外にも研究倫理に関する研修を検討する。</li> <li>前年度と申請件数は同じであったため、今後、申請が増えるように外部委員と連携し、研修等を検討する。</li> </ul>		

学部/委員会名		看護学部 紀要編集委員会
設置根拠		看護学部 紀要編集委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	委員長：巽、峯岸、岩城、林、阪田
	職員	増田

<p>[1. 主な審議項目]</p> <p>① 今年度の宝塚大学紀要の論文について</p> <p>② 原稿の査読体制と、委員会での体裁確認体制について</p> <p>③ 宝塚大学紀要発刊について</p> <p>④ 宝塚大学紀要編集委員会・規程の状況について</p> <p>⑤ 投稿規程、査読要領について</p> <p>⑥ DB収録について</p>
<p>[2. 審議結果及び実施状況]</p> <p>① 本年度は2件の投稿があり、うち1件が査読終了し、受理され、印刷に回っている。</p> <p>② 査読は准教授以上の職位の教員5名に依頼し、体裁確認は委員で分担してを行った。</p> <p>③ 例年1月に調整が完了している表紙の色、奥付部分の記載内容が3月に確定した。</p> <p>④ 今年度の経緯を踏まえて倫理的配慮、査読者を見直し、投稿規程、査読要領の改訂案を作成した。</p> <p>⑤ Medical*Online、医学中央雑誌 には看護学部分の全文、JST には書誌情報のみ提供している。</p>
<p>[3. 総括及び改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回の持ち回り委員会を含めて14回委員会を開催し、論文1件が受理され、印刷中である。</li> <li>・ 2017年度開始した委員による論文の体裁確認体制で、査読者の負担を減らした。</li> <li>・ 現行の査読要領の査読者の規定が、元紀要編集委員長から不適切との指摘があり改訂案を作成した。</li> <li>・ 2017年度開始したDB収録手続きを継続した。</li> </ul>
<p>[4. 次年度に向けての取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この3年間で取り組んできたDB収録手続きと委員による論文の体裁確認体制を引き継ぐ。</li> <li>・ 看護学部からの論文が少なく、学部別にして委員会報告を入れるなど、紀要の在り方を検討する。</li> <li>・ 全学の紀要編集委員会に関する規程がなく、5年連続で委員長が不在でなった。</li> <li>・ 委員全体と意見交換して意見を取り纏められる全学の紀要編集委員長と協業をしていきたい。</li> </ul>

## 委員会の活動状況(2019年度)

看護学部 - 9

学部/委員会名		看護学部 図書委員会
設置根拠		看護学部 図書委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	尾ノ井美由紀、杉本綾香
	職員	月本一武、川久保美佳

### [1. 主な審議項目]

- (1) ガイダンス(学生、新任教員)について
- (2) 図書選書(教員、学生)について
- (3) 図書館設備環境の整備
- (4) 梅田図書館内規について
- (5) 電子書籍の活用について

### [2. 審議結果及び実施状況]

- (1) 2019年度(2019年2月現在)貸出冊数:5447冊、内卒業生290冊。除籍冊数:101冊。
- (2) 前期・後期各学年にガイダンスを実施した。また、新任教員にガイダンスを行った。
- (3) 学生選書は7月と11月に、教員選書は6月と11月に実施した。
- (4) 1階の空調環境の改善と2階に個人ブースを7席設置した。
- (5) 宝塚大学規程の見直しに伴い、梅田図書館規程も見直しを行い見直しの結果を受けて2018年度課題を見直す予定である。
- (6) 4月に新任教員対象にCINAHL講習会を実施し2名の参加があった。
- (7) 実習での電子書籍の活用希望があり検討したが、学外持ち出しが不可能であることから活用できなかった。

### [3. 総括及び改善点]

- ・ 2019年度貸出冊数は2018年度より389冊増え、卒業生も18冊増加した。
- ・ 図書館2階閲覧室に個人席を設けるなど学習利用可能な環境となった。
- ・ 定期的な学生・教員選書の実施により図書購入希望が増えた。
- ・ 国家試験対策の一環として前期から後期早朝に国家試験問題および解答を配布した。

### [4. 次年度に向けての取組み]

- ・ 宝塚大学付属図書館規程により梅田図書館の位置づけや内容決定後、内規作成を行う
- ・ 図書館2階閲覧室を学習利用適したレイアウトにしていく。
- ・ 規程見直しに伴い個人研究費購入図書の取り扱い要領の変更。
- ・ 図書館利用の活性化



学部/委員会名		看護学部 入試・広報委員会
設置根拠		看護学部 入試・広報委員会規程
構成員 (事務担当含む)	教員	日高委員長 澤田学部長 山本学科長 西田副委員長 小神野助産学専攻科長代行 牧野委員 浮田委員 梅川委員 平野委員 松田委員 雨宮副学長(オブザーバー)
	職員	中島事務長 会田入試課長

〔1. 主な審議項目〕	
1	2020年度 看護学部 総合型入学選考の新設、公募推薦・指定校・社会人・一般入試の実施
2	2020年度 助産学専攻科 入学選考の実施
3	2021年度 看護学部入学者選抜の改革案の策定、大学入学共通テストへの参加
4	2021年度 助産学専攻科入学者選抜の改革案の策定
5	大学ホームページのリニューアルについて
6	2020年度 各入学選考の合否判定
〔2. 審議結果及び実施状況〕	
1	看護学部 総合型入学選考 1次選考(書類)と2次選考(2日連続で実施)を初めて実施
2	来年度の看護学部、助産学専攻科の入学者選抜が決定、来年度に合否基準を策定
3	大阪府の近隣私立大学と大学入学共通テストの共同実施で合意、来年度に協定締結
4	大学ホームページのリニューアルを2月中に実施、来年度に向けて微調整を行う
5	入学選考の結果、看護学部105名、助産学専攻科10名の入学予定
6	WEBによる広報を強化し、ターゲットにリーチするメディアに予算を傾斜させる
〔3. 総括及び改善点〕	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型入試については、意欲の高い高校生を選抜できたとの声が多かった</li> <li>・ 昨年度に比べて志願者数が増加し、一昨年度並みの志願者を確保することができた</li> <li>・ 助産学専攻科については、近隣競合校との関係で入試日程を早め、試験範囲を変更</li> <li>・ 新しい入学者選抜について、初めて実施することが多いため、周到に準備を進める</li> <li>・ ターゲットにする高校を決めて、オープンキャンパスへの参加や出願を促進する</li> </ul>
〔4. 次年度に向けての取組み〕	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい入学者選抜の合否判定基準内規の策定</li> <li>・ オープンキャンパスや高校生対象の模擬授業の強化(高大連携)</li> <li>・ SNSを活用した募集広報の強化</li> <li>・ 大学入学共通テストの共同実施</li> <li>・ 入試・広報委員会のペーパーレス化</li> </ul>

学部/委員会名		看護学部 カリキュラム委員会
設置根拠		教務委員会規程、看護学部教務委員会規程、教職員の聴講に関する内規、
構成員 (事務担当含む)	教員	尾ノ井美由紀、澤田京子、山本裕子、峯岸由紀子、巽圭太、日高康晴、中川ひろみ、八田勘司、上山直美、合田有美、浮田恭子、牧野裕子、雨宮照雄(オブザーバー) 敬称略・順不同
	職員	谷口陽亮、会田洋介

〔1. 主な審議項目〕	
(1)	2021年度新カリキュラム改正に向けて「看護とアート」「非常勤講師見直し」ワーキングメンバーの決定
(2)	「看護とアート」ワーキングG報告
(3)	「非常勤講師見直し」ワーキングG報告
(4)	看護師国家試験出題基準と現行カリキュラムの見直しによる2019年度以降の対策
(5)	2021年度新カリキュラム改正に伴う申請のための課題整理とメンバーの再編成
〔2. 審議結果及び実施状況〕	
(1)	宝塚大学の特徴である「看護とアート」について職員の共通認識の必要性が再確認された
(2)	新カリキュラム申請に伴い「非常勤講師」の年齢や任用条件を整備した。
(3)	看護師国家試験出題基準と現行カリキュラムの見直しにより2019年度後期より、必須科目である「医療と情報」と「基礎看護学Ⅲ」及び看護専門科目で不足している部分をカバーすることが決定した。尚、対応以前の学生においては国家試験対策としてカバーすることとなった。
(4)	2021年5月の申請を目指して、学部長指揮の下検討会委員7名が選出され、2020年以降は学科長が検討会長に任命された。
〔3. 総括及び改善点〕	
平成28年度に文部科学省から看護学教育モデル・コア・カリキュラムが提示されて以降カリキュラム検討が行われてきたが、申請時期検討中である2019年9月末日に厚生労働省の看護基礎教育検討会より「看護師教育の基本的考え方、留意点(案)」が出され、具体的なカリキュラム指標が明示された。指標が示されたことより2021年5月の新カリキュラム申請に向けてタイムスケジュールの確認とメンバーが再選考された。	
新カリキュラムのメンバーは学科長委員長の指揮の下、変更科目である基礎教育、基礎看護学、在宅看護論の教員がメンバーとして含まれることとなった。	
新検討会発足に際し、教員全員が「看護学教育モデルコアカリキュラム」や「看護基礎教育検討会」の内容を熟知しておくことが周知された。	
〔4. 次年度に向けての取組み〕	
新カリキュラム申請に向けて現行カリキュラムの見直し	
看護学教育モデル・コア・カリキュラムと看護基礎教育検討会内容と整合性のある新カリキュラムの検討・決定	
2021年5月に申請に向けて必要書類の準備	

【東京メディア芸術学部】地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献 画像一覧

(番号は p. 32 の「表 24 地域連携 (社会貢献) 2019 年度の活動実績」の番号と対応しています)

②

ヘッドマーク+BANKOKKI 制作ワークショップ  
開催 (2019年7月)



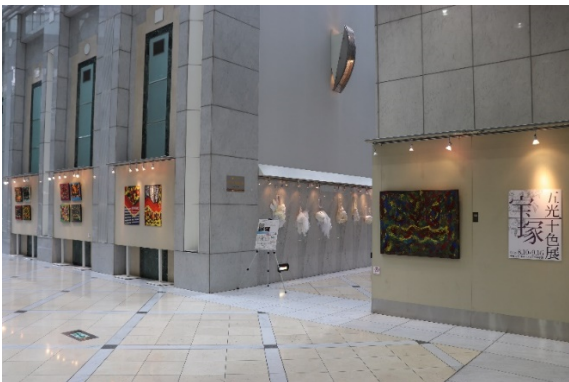
⑥

鎌倉 (神奈川県) で活躍する 2 団体のイベント  
チラシなどをデザイン (2019年8月)



⑦

「新宿クリエイターズ・フェスタ 2019」 出展  
(2019年8月)



⑨

東京 2020 大会を普及のワークショップを開催  
(2019年9月、2020年1月)



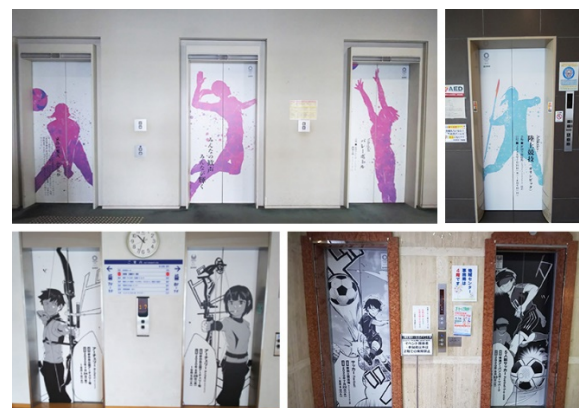
⑫

「“恋姫” ラッピングバス」 運行開始 (伊那バ  
ス株式会社との産学連携事業)  
(2019年10月)



⑭

東京 2020 大会を PR するラッピングデザイン  
を新宿区内の全出張所に設置  
(2019年10月)





⑰

静岡県伊東市内の商店街にトリックアートを設置

(2019年11月)

**按針、頼朝、八重姫…名所も**

**3商店街に「だまし絵」**

伊東市の中心市街地の3商店街に、相次いでトリックアート「だまし絵」が目立っている。あじしん通り商店街では4日、同市ゆかりの英国人イライム・アダムス（日本名・三浦按針）をテーマにした絵の制作が進められた。桜木町商店街と温泉橋通り商店街は回までに、「源頼朝と八重姫」「伊東の名所」をテーマにしたアートの設置を終えた。

**市商連にぎわい創出事業**

市商連が市川年度から取り組む「つわい創出事業」で、加正街（仮）がトリックアートの設置の商店街で順次紹介

市商連が市川年度から取り組む「つわい創出事業」で、加正街（仮）がトリックアートの設置の商店街で順次紹介

「マップ作り誘導策検討へ」

画・設置を進めてきた。あじしん通りでの制作が締めくくられた。制作は新得メソディア芸術地域活性化推進協会が主催で、あじしん通りでは隣人が並び、特定の場所から写真を撮ると、浮かび上がった。見える按針の絵、八重姫をそれぞれ描いた看板の下になり、頼朝、八重姫が「出会う」。

桜木町商店街は、商店街の柱に「碧湖」や東海館の看板を取り付けた。温泉橋通りは街路灯の支柱に「碧湖」や東海館の看板を取り付けた。温泉橋通りは街路灯の支柱に「碧湖」や東海館の看板を取り付けた。

同連盟の事務局担当者は「今後、トリックアートを巡るマップを作るなど、各商店街への誘導策を検討していきたい」と話した。

「碧湖」を描いたトリックアート＝伊東市の温泉橋通り商店街

⑳

新宿区主催「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」250 日前記念イベントに協力

(2019年12月)



【看護学部】地域社会・地方自治体との連携活動・社会貢献 画像一覧

(番号は p. 32 の「表 24 地域連携 (社会貢献) 2019 年度の活動実績」の番号と対応しています)

②

100 万人のキャンドルナイト茶屋町スロウデイ  
学生キャンドル作品出展

(2019 年 4 月)



③

大阪市保健所 学校における HIV/エイズ・性教育講習会  
会場提供と教員による講演を実施

(2019 年 9 月)





④

大阪市北区役所・大阪市北消防署 地域防災訓練に教職員・学生が参加  
(2019年11月)



NPO 法人 芸術と創造協会関西支部 あそびとおもちゃのお祭り  
KANSAI おもちゃ FESTIVAL2020 in 宝塚大学大阪梅田キャンパス (2020年2月)

